



2023年度 京都大学野生動物研究センター年報 Wildlife Research Center, Kyoto University



2023 年度

京都大学野生動物研究センター年報

目次

1. 巻頭言 2023	2
2. 野生動物研究センター憲章	3
3. 組織概要	3
4. 2023 年度構成員	3
5. この一年の動き・活動	7
6. 学部・大学院教育	8
7. 外部資金	9
8. 大型プロジェクト	12
9. 動物園・水族館との連携	16
10. 国内研究拠点・国内機関との共同研究	17
11. 共同研究者訪問履歴表	19
12. 研究集会	20
13. 海外拠点・海外機関との研究交流等	22
14. 海外渡航	23
15. 安全対策	28
16. 自己点検評価	29
17. 2023 年度研究業績	30
18. 共同利用・共同研究拠点	40
19. 野生動物研究センター 企業連携・情報発信事業	46

1. 巻頭言 2023

野生動物研究センターの2023年度年報をお届けします。

今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大が多少なりとも落ち着きをみせました。とはいえ、その影響が完全に払拭されたわけではなく、とくにフィールドワークを主体とする研究活動にはさまざまな制限がかけられました。わたしたちはこのやっかいなウイルスとの共存を探らなければならないでしょうし、今後も出現するだろう新たな困難も覚悟しなければなりません。そのような中でも、いくつもの研究成果を出せたことは賛辞に値します。学生2人が博士学位を取得したことも素晴らしいことです。彼らには今後の野生動物研究の発展を担ってもらいたいと切望します。

当研究センターが京都大学学内共同利用施設として開設されてから16年が経過しました。2022年に、それまでの1分科（野生動物科学）5研究部門を改組し、野生動物科学と保全福祉科学の2分科に分け、陸圏保全学、水圏保全学、分子保全学、動物福祉学の4部門に再編しました。改組したとはいえ、当研究センターの「野生動物に関する教育研究をおこない、地球社会の調和ある共存に貢献する」という目的は変わっていません。その目的を実現するために、1. 絶滅の危惧される野生動物を対象とした基礎研究を通じて、その自然の生息地でのくらしを守り、飼育下での健康と長寿をはかるとともに、人間の本性についての理解を深める研究をおこなう、2. フィールドワークとライフサイエンス等の多様な研究を統合して新たな学問領域を創生し、人間とそれ以外の生命の共生のための国際的研究を推進する、3. 地域動物園や水族館等との協力により、実感を基盤とした環境教育を通じて、人間を含めた自然のあり方についての深い理解を次世代に伝える、といったミッションも同じです。

しかし、大学の研究環境は大きく変わりつつあります。人や社会の生活にすぐに還元される応用研究が重視され、それらを下支えする基礎研究は軽視される傾向にあります。つまり、わたしたちが主体とする野生動物や自然環境を対象とする研究は純粋な基礎研究であり、それを推進するためには制度的にも経済的にも厳しい環境になっているのです。もちろん応用研究の重要性は十分に理解できます。でもそれを支えてきたのは、膨大かつ多彩な基礎研究です。言わばエジプトの頑強なピラミッドのような構造が求められるのです。

また、今年度から「国際卓越研究大学」制度が導入されました。これは世界トップレベルの研究力を実現しようとするものです。近年、多くの大学教員は組織運営、多様な資料作成、競争的資金の獲得、時代に即した新たな規定の検討、安全管理など、研究以外の業務に追われています。結果、日本の研究力の低下が指摘されてきました。そこで国際卓越研究大学は政府の10兆円大学ファンドから支援を得ることで、低下した日本の研究力のレベルアップを図ろうとしているのです。今年度は東北大学が唯一認定されましたが、次年度も他の国立大学や私立大学が応募することは間違いありません。もちろん本学も再挑戦することは明かですが、認定されたあかつきには明るい研究環境が待っているのでしょうか。当研究センターのように小さな部局は果たしてどのような位置づけになるのでしょうか。

わたしに残された時間は1年を切りました（のはずです）。今後、当研究センターはどのような方向に進むのでしょうか。五里霧中の感は否めませんが、野生動物学という学問を維持・発展させる責務がわたしたちにはあります。多様な生きものが暮らす地球という環境で、かれらがどのように行動し、どのように自然と向き合っているかを学ぶことは、わたしたちが地球上で生き残るためひとつの手段なのです。

今後とも野生動物研究センターへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

京都大学野生動物研究センター
センター長 伊谷 原一

2. 野生動物研究センター憲章

京都大学野生動物研究センターは、野生動物に関する教育研究をおこない、地球社会の調和ある共存に貢献することを目的とする。その具体的な課題は次の3点に要約される。第1に、絶滅の危惧される野生動物を対象とした基礎研究を通じて、その自然の生息地での暮らしを守り、飼育下での健康と長寿をはかるとともに、人間の本性についての理解を深める研究をおこなう。第2に、フィールドワークとライフサイエンス等の多様な研究を統合して新たな学問領域を創生し、人間とそれ以外の生命の共生のための国際的研究を推進する。第3に、地域動物園や水族館等との協力により、実感を基盤とした環境教育を通じて、人間を含めた自然のあり方についての深い理解を次世代に伝える。

京都大学野生動物研究センター設置準備委員会（平成20年2月5日制定）

3. 組織概要

センターの研究は、野生動物のこころ、からだ、暮らし、ゲノム、そして健康長寿の探究をめざします。そのために、下記のような4つの研究部門で構成されています。さらに、国内に3つの研究拠点、海外に11つのフィールドワークの研究拠点があります。

1. 研究部門

陸圏保全、水圏保全、動物福祉、分子保全

2. 国内の研究拠点

幸島観察所、屋久島観察所、熊本サンクチュアリ

3. 海外の研究拠点

タンザニアのキゴマ、アルーシャ及びダルエスサラーム、ガーナのアクラ、コンゴ民主共和国のジョル及びバリ、ウガンダのブシェニ及びカンパラ、タンザニアのウガラ、ブラジルのアマゾナス州、ポルトガルのヴィアナ・ド・カステロ

なお、センターの運営は協議委員会でおこない、諮問機関として連携協議会があります。

4. 2023年度構成員

4.1. 教員

センター長：伊谷 原一（いだに げんいち）

教授：村山 美穂（むらやま みほ）

教授：平田 聡（ひらた さとし）

教授：三谷 曜子（みたに ようこ）

教授：松田 一希（まつだ いっき）

准教授：杉浦 秀樹（すぎうら ひでき）

准教授：Michael Huffman（まいく はふまん）

准教授：Andrew MacIntosh（あんどりゅー まっきんとっしゅ）

助教：徳山 奈帆子（とくやま なほこ）

助教：橋本 千絵（はしもと ちえ）

助教：佐藤 悠（さとう ゆう）（2023年4月1日～）

特定准教授（白眉プロジェクト）：相馬 拓也（そうま たくや）

特定准教授：新宅 勇太（しんたく ゆうた）（2023年4月1日～）

特定准教授：藤原 摩耶子（ふじはら まやこ）

特定助教（白眉プロジェクト）：Gao Jie（がお じえ）（2023年7月1日～）

4.2. 兼任教員

今井 啓雄（いまい ひろお） 京都大学ヒト行動進化研究センター・教授

山本 真也（やまもと しんや） 京都大学高等研究院・准教授

山越 言（やまこし げん） 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科・教授

半谷 五郎 (はんや ごろう) 京都大学ヒト行動進化研究センター・准教授
中村 美知夫 (なかむら みちお) 京都大学理学研究科・准教授
木村 里子 (きむら さとこ) 京都大学東南アジア地域研究研究所・准教授
齋藤 美保 (さいとう みほ) 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科・助教
遠藤 秀紀 (えんどう ひでのり) 東京大学総合研究博物館・教授
藤田 志歩 (ふじた しほ) 鹿児島大学共通教育センター・准教授
松林 尚志 (まつばやし なおし) 東京農業大学農学部・教授
木下 こづえ (きのした こづえ) 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

4.3. 特任教員

特任教授：幸島司郎 (こうしま しろ)う)
特任教授：田中正之 (たなか まさゆき) (京都市文化市民局)
特任教授：西田 睦 (にしだ むつみ) (琉球大学)
特任教授：阿形 清和 (あがた きよかず) (学習院大学)
特任教授：Fred BERCOVITCH (ふれっど べるこびっち)
特任教授：Raman SUKUMAR (らまん すくまー) (インド科学大学)
特任教授：Han Ning (はん にん) (昆明理工大学)
特任教授：森岡 一 (もりおか はじめ)
特任教授：辰野 勇 (たつの いさむ) (株式会社モンベル会長)
特任教授：Hill. David Anhthony (ひる でいびっど) (インド科学大学)
特任教授：Robert OGDEN (ろばーと おぐでん)
特任教授：James. R. ANDERSON (じえーむす あんだーそん)
特任教授：岸田 拓士 (きしだ たくし) (日本大学)
特任准教授：中村 美穂 (なかむら みほ)
特任准教授：齋藤 亜矢 (さいとう あや) (京都造形芸術大学)
特任准教授：狩野 文浩 (かの ふみひろ) (コンスタンツ大学)

4.4. 事務職員・技術職員・非常勤職員等

事務長：川邊 博之 (かわべ ひろゆき)
事務掛長：山中 啓太郎 (やまなか けいたろう)
技術職員：鈴木 崇文 (すずむら たかふみ) (幸島観察所)
技術職員：野上 悦子 (のがみ えつこ) (熊本サンクチュアリ)
支援職員：高橋 佐和子 (たかはし さわこ)
教務補佐員：小林 宏美 (こばやし ひろみ)
教務補佐員：SONG, Xiaomeng (そん しょうもん) (2023年1月1日～)
教務補佐員：杉谷 美紀 (すぎたに みき) (～2023年5月)
事務補佐員：栗野 紋子 (くりの あやこ)
事務補佐員：栗原 智子 (くりはら ともこ)
事務補佐員：前川 洋子 (まえかわ ようこ)
技能補佐員：小松 優人 (こまつゆうと) (熊本サンクチュアリ)
教務補佐員：上坂 博介 (うえさか ひろすけ) (熊本サンクチュアリ)
事務補佐員：那須 和代 (なす かずよ) (熊本サンクチュアリ)
技術補佐員：川上 博加 (かわかみ ひろか) (熊本サンクチュアリ)
技能補佐員：杉 美智子 (すぎ みちこ) (熊本サンクチュアリ)
技術補佐員：平田 加奈子 (ひらた かなこ) (2023年10月1日～)
技能補佐員：鹿毛 渉之介 (かげ しょうのすけ) (熊本サンクチュアリ) (～2023年10月31日)
技術補佐員：HAN YIFAN (はん いーふあん) (2023年11月1日～)
技術補佐員：平川 百恵 (ひらかわ ももえ) (2023年5月16日～) (熊本サンクチュアリ)
技術補佐員：吉田 礼 (よしだ あや) (2023年4月16日～) (熊本サンクチュアリ)
技術補佐員：國枝 匠 (くにえだ たくみ) (2023年4月1日～) (日本モンキーセンター)

技術補佐員：河野 有希(かわの ゆき)(2024年3月1日～)(熊本サンクチュアリ)
技術補佐員：徳丸 憲一(とくまる けんいち)(2024年3月1日～)(熊本サンクチュアリ)
技術補佐員：櫻木 雄太(さくらぎ ゆうた)(2023年11月16日～)
技術補佐員：古巻 史穂(ふるまき しほ)(2023年11月16日～2024年1月31日)
技術補佐員：小川 萌日香(おがわ もにか)(2023年12月1日～2024年2月29日)
事務補佐員：大森 佳保里(おおもり かほり)(犬山キャンパス)
事務補佐員：角谷 千代子(かくたに ちよこ)(犬山キャンパス)
技術補佐員：高野 かおり(たかの かおり)(犬山キャンパス)
派遣職員：小西 昌宏(こにし まさひろ)
派遣職員：鈴木 令子(すずき れいこ)(2023年10月10日～)

4.5. 研究員等

特定研究員：岡部 直樹(おかべ なおき)
特定研究員：廣澤 麻里(ひろさわ まり)
特定研究員：綿貫 宏史朗(わたぬき こうしろう)
特定研究員：竹元 博幸(たけもと ひろゆき)
特任研究員：幸島 和子(こうしま かずこ)
特任研究員：伊藤 英之(いとう ひでゆき)
特任研究員：村山 裕一(むらやま ゆういち)
特任研究員：山梨 裕美(やまなし ゆみ)
特任研究員：櫻庭 陽子(さくらば ようこ)
特任研究員：滝澤 玲子(たきざわ れいこ)
特任研究員：Christopher ADENYO(くりすとふあー あでによ)
特任研究員：田和 優子(たわ ゆうこ)
特任研究員：菊池 夢美(きくち むみ)
特任研究員：中林 雅(なかばやし みやび)
特任研究員：荒堀 みのり(あらほり みのり)
特任研究員：持田 浩治(もちだ こうじ)
特任研究員：池田 成秀(いけだ なりひで)
特任研究員：村松 大輔(むらまつ だいすけ)
特任研究員：原澤 牧子(はらさわ まきこ)
特任研究員：津田 晶子(つだ しょうこ)
特任研究員：澤栗 秀太(さわくり しゅうた)
特任研究員：井上 創太(いのうえ そうた)
特任研究員：キム・ミーヨン(きむ みーよん)
特任研究員：遠藤 良典(えんどう よしのり)
特任研究員：田島 知之(たじま ともゆき)
特任研究員：前田 玉青(まえだ たまお)
特任研究員：武 真祈子(たけ まきこ)
特任研究員：鶴殿 俊史(うどの としふみ)(熊本サンクチュアリ)
特任研究員：森 裕介(もり ゆうすけ)(熊本サンクチュアリ)
特任研究員：工藤 宏美(くどう ひろみ)
特任研究員：Renata Mendonca(れな一た めんどんさ)
特任研究員：豊田 有(とよだ ある)
研究員(非常勤)：毛利 恵子(もうり けいこ)
研究員(非常勤)：Kristin Ann Havercamp(くりすていん はーばー きゃんぷ)(2023年4月16日～)
研究員(非常勤)：古市 剛史(ふるいち たけし)(2023年5月1日～)

4.6. 大学院博士後期課程

JAMES BROOKS (じえーむす ぶるーくす)(2023年7月24日修了)※PWSリーディング大学院履修生
PANDORA FRANCISCA COSTA BARAO PINTO (ぱんどら ふらんしすか こすた ばらお ぴんと)

※PWSリーディング大学院履修生（2023年9月25日修了）
ELIO DE ALMEIDA BORGHEZAN（えりお であるめいだ ぼるげさん）
※PWSリーディング大学院履修生
李 怜柱（い よんじゅ）※PWSリーディング大学院履修生
内藤 アンネグレート素（ないとう あんねぐれーともと）※PWSリーディング大学院履修生
大西 絵奈（おおにし えな）※PWSリーディング大学院履修生
斉 恵元（さい けいげん）
義村 弘仁（よしむら ひろと）※PWSリーディング大学院履修生
PIAO YIGE（ぴあお いぐえ）※PWSリーディング大学院履修生
ANA SOFIA PENTEADO VILELA（あな そふいあ ぺんてあど びいれら）
善本 智佳 ※PWSリーディング大学院履修生
李 何萍（り かへい）※PWSリーディング大学院履修生
新井 花奈（あらい かな）※PWSリーディング大学院履修生
板原 彰宏（いたはら あきひろ）※PWSリーディング大学院履修生
杉元 拓斗（すぎもと たくや）※PWSリーディング大学院履修生
LIN CHAOYU（りん しょうよ）※PWSリーディング大学院履修生
戸部 有紗（とべ ありさ）※PWSリーディング大学院履修生

4.7. 大学院修士課程

小林 知奈（こばやし ちな）※PWSリーディング大学院履修生
八鍬 聖（やくわ さとる）
岡本 優芽（おかもと ゆめ）※PWSリーディング大学院履修生
LIN CHRISTEN（りん くりすてん）※PWSリーディング大学院履修生
MAGNUS OLSEN MONGE（まぐなす おるせん もんじゅ）
鈴木 百夏（すずき ももか）※PWSリーディング大学院履修生
白澤 子銘（しらさわ しめい）※PWSリーディング大学院履修生
小川 あゆみ（おがわ あゆみ）※PWSリーディング大学院履修生
SAIDI MOHAMED MOHAMED（さいでい もはめど もはめど）※PWSリーディング大学院履修生
關 真理江（せき まりえ）※PWSリーディング大学院履修生
尾川 楽人（おがわ がくと）
西本 千夏（にしもと ちなつ）※PWSリーディング大学院履修生
AZHARI FADEL ABDURRAHMAN（あずはり ふあでる あぶどらふまん）（2023年10月編入）
※PWSリーディング大学院履修生

4.8. 研究生

黄 敏生（こう びんせい）（2023年12月入学）

4.9. 特別研究学生

櫻木 雄太（さくらぎ ゆうた）北海道大学大学院環境科学院 博士課程
小川 萌日香（おがわ もにか）北海道大学大学院環境科学院 博士課程
古巻 史穂（ふるまき しほ）北海道大学大学院環境科学院 博士課程
JOHNSTONE JACKSON BROOK（じょんすとん じゃくそん ぶるつく）北海道大学大学院環境科学院
博士課程

※期間が書いていない場合は2023年4月1日～2024年3月31日の在籍

4.10. 共同利用・共同研究拠点

共同利用・共同研究拠点運営委員

村山美穂（京都大学野生動物研究センター・教授）

朝倉彰(京都大学フィールド科学研究センター・教授)
坂本龍太(京都大学東南アジア地域研究研究所・准教授)
中野伸一(京都大学生態学研究センター・センター長・教授)
亀崎直樹(岡山理科大学生物地球学部・教授)
牛田一成(中部大学創発学術院・応用生物学部・教授)
栗田正徳(名古屋港水族館・館長)
黒邊雅実(名古屋市東山動物園・園長)
坂本英房(京都市動物園・園長)
横山真弓(兵庫県立大学自然・環境科学研究所・教授)

共同利用・共同研究拠点計画委員会

清野未恵子(神戸大学大学院人間発達環境学研究科・准教授)
山梨裕美(京都市動物園生き物学び研究センター・主席研究員)
井上英治(東邦大学理学部生物学科・准教授)
三谷曜子(京都大学野生動物研究センター・教授)
杉浦秀樹(京都大学野生動物研究センター・准教授)
佐藤悠(京都大学野生動物研究センター・助教)

5. この一年の動き・活動

2023年

- 4月12日: 野生動物研究センター協議員会, 霊長類学・野生動物系教員会議 (於: 関田南研究棟地階会議室)
- 5月17日: 野生動物研究センター協議員会, 霊長類学・野生動物系教員会議 (於: 関田南研究棟地階会議室)
- 6月15日: 野生動物研究センター協議員会, 霊長類学・野生動物系教員会議 (於: 関田南研究棟地階会議室)
- 7月12日: 野生動物研究センター協議員会, 霊長類学・野生動物系教員会議 (於: 関田南研究棟地階会議室)
- 7月15日: 熊本サンクチュアリ運営委員会 (於: 関田南研究棟地階会議室及びオンライン開催)
- 10月11日: 野生動物研究センター協議員会, 霊長類学・野生動物系教員会議 (於: 関田南研究棟地階会議室)
- 11月15日: 野生動物研究センター協議員会, 霊長類学・野生動物系教員会議 (於: 関田南研究棟地階会議室)
- 11月30日: 野生動物研究センター連携協議会, 野生動物研究センター共同利用・共同研究拠点運営委員会 (於: 関田南研究棟地階会議室及びオンライン開催)
- 12月13日: 野生動物研究センター協議員会, 霊長類学・野生動物系教員会議 (於: 関田南研究棟地階会議室)

2024年

- 1月17日: 野生動物研究センター協議員会, 霊長類学・野生動物系教員会議 (於: 関田南研究棟地階会議室)
- 1月26日: 熊本サンクチュアリ運営委員会(於: 関田南研究棟地階会議室及びオンライン開催)
- 2月14日: 野生動物研究センター協議員会, 霊長類学・野生動物系教員会議 (於: 関田南研究棟地階会議室)
- 3月13日: 野生動物研究センター協議員会, 霊長類学・野生動物系教員会議 (於: 関田南研究棟地階会議室)

6. 学部・大学院教育

学部生向け講義

全学共通科目

- 野生動物学入門 (自然科学科目群・前期)
- Comparative Cognition-E2 (自然科学科目群・後期)
- Conservation Biology-E2 (自然科学科目群・前期)
- Animal Behavior-E2 (自然科学科目群・前期)
- Zoo Biology-E2 (自然科学科目群・後期集中)

ILAS セミナー

- 遺伝子からみる野生動物 (少人数教育科目群・前期集中)

理学部科目

- 保全生物学 (前期)

大学院生向け講義

- 霊長類社会生態学基礎論 (前期集中)
- 比較動物行動学基礎論 (前期集中)
- 野生動物・行動生態基礎論 (前期集中)
- 保全生物学基礎論 (前期集中)
- 動物福祉学基礎論 (前期集中)
- 霊長類生態保全学特論 (後期)
- 霊長類社会進化学特論 (後期)
- 野生動物特論 (後期集中)
- 野生動物科学特論 (後期集中)
- 保全福祉科学特論 (後期集中)
- 野生動物・行動生態野外実習 (前期集中)
- 動物園科学実習 (前期集中)
- 動物福祉実習 (後期集中)
- 海棲哺乳類調査実習 (前期集中)
- 野外生物学実習 (後期集中)
- 野外生物学分析実習 (後期集中)
- 基礎フィールドワーク実習 (後期集中)
- 霊長類社会生態学ゼミナールC (前期集中)
- 霊長類社会生態学ゼミナールD (後期集中)
- 国際科学コミュニケーションゼミナールA (前期)
- 国際科学コミュニケーションゼミナールB (後期)
- 国際科学コミュニケーションゼミナールC (前期)
- 国際科学コミュニケーションゼミナールD (後期)
- 野生動物ゼミナールA (前期)
- 野生動物ゼミナールB (後期)
- 野生動物ゼミナールC (前期)
- 野生動物ゼミナールD (後期)
- 野生動物科学ゼミナールA (前期)
- 野生動物科学ゼミナールB (後期)
- 野生動物科学ゼミナールC (前期)
- 野生動物科学ゼミナールD (後期)
- 保全福祉科学ゼミナールA (前期)
- 保全福祉科学ゼミナールB (後期)
- 保全福祉科学ゼミナールC (前期)
- 保全福祉科学ゼミナールD (後期)

生物科学特殊講義（後期集中）
 霊長類学・野生動物特殊研究A（前期）
 霊長類学・野生動物特殊研究B（後期）
 霊長類学・野生動物特殊研究C（前期）
 霊長類学・野生動物特殊研究D（後期）

博士学位論文（京都大学大学院理学研究科博士後期課程）

James Brooks 「The evolutionary origins of group-mindedness: comparative studies with apes and equines」
 Pandora Francisca Costa Barão Pinto 「Exploring the formation, maintenance, and adaptive significance of multi-male groups in feral horse societies」
 土井(田和) 優子「Salt-lick use by mammals in tropical rainforests of Peninsula Malaysia」
 Elio de Almeida Borghezan 「Effects of divergent water colours on Amazon fish evolution」
 内藤 アンネグレート素 「Genetic diversity assessment and conservation implications for two raptor species」
 齊惠元 「Development of epigenetic clocks in multiple felid species—from small to big, domestic to wild」
 義村義弘 「A multifaceted approach to the study of plant-eating in feline carnivores」

修士論文（京都大学大学院理学研究科修士課程）

岡本 優芽「ネコの行動特性とホルモン受容体の遺伝子型の関連」
 小林 知奈「ウマのマルチスケールな個体間関係・集団性の解明」
 八鍬 聖「霊長類におけるスフィンゴ脂質代謝関連遺伝子の多型とパーソナリティの関連」
 Magnus Olsen Monge 「Comparative Ranging Patterns in Sea Cow Species」
 Christen Lin 「Measuring Emotional States in Chimpanzees through Judgment Bias via a Go/no-go Touch Screen Task」

7. 外部資金

7.1. 科学研究費補助金

受入者	代表/分担	種別	研究課題名	金額（千円：直接/間接）
村山 美穂	代表	新学術領域	家畜化によるヒトと動物の関係変容に伴う性格関係遺伝子の変化	1,900/570
相馬 拓也	代表	新学術領域	草原世界の伝統知に秘められた人類の生存戦略の探索	1,500/450
平田 聡	代表	基盤 A	時間に関連した認知機能の進化的基盤を探る	10,600/3,180
古市 剛史	代表	基盤 B	霊長類のメスの集団間移籍の要因：類人猿のメスの身体的・性的発達に着目して	2,100/630
Andrew MacIntosh	代表	基盤 B	Testing dilution versus amplification effects of primate biodiversity on parasite biodiversity	1,700/510
相馬 拓也	代表	基盤 B	シルクロードの伝統知から探る遊牧民の草原適応術とレジリエンスの学知融合研究	1,500/450
橋本 千絵	代表	国際共同研究強化 B	ヒト科における閉経の進化：野生類人猿の老齢メスの性ホルモン動態と繁殖戦略の研究	2,800/840
松田 一希	代表	国際共同研究強化 B	霊長類の性的二型の進化要因の解明	1,200/360
橋本 千絵	代表	海外連携研究	繁殖につながらない性の進化：ボノボの授乳不妊期における性的受容性の発現	1,900/570
松田 一希	代表	挑戦的研究	熱帯の陸域生態系におけるマイクロプラスチック汚染	1,700/510

		(萌芽)	の実態把握	
澤田 晶子	代表	基盤 C	サルはにおいて毒キノコを判別するのか:忌避を誘導する揮発性物質の特定	1,000/300
徳山 奈帆子	代表	若手	野生 Pan 属 2 種における外集団に対する心的活動の違い:行動と生理指標からの検討	900/270
櫻庭 陽子	代表	若手	霊長類における身体障害個体に対する情動と社会関係:身体的ハンデは社会的ハンデ?	700/210
義村 弘仁	代表	特別研究員 奨励費	キルギス共和国の高山生態系における哺乳類の植物利用戦略の解明	700
内藤 アン ネグレート 素	代表	特別研究員 奨励費	絶滅危惧種イヌワシとクマタカにおける「つがいの相性」遺伝的基盤と繁殖成功率	1,100
板原 彰宏	代表	特別研究員 奨励費	モーシオンキャプチャ技術で明らかにするカラスの社会的知性とその社会生態的な機能	1,400
三谷 曜子	分担	基盤 S	海水が導く熱・塩・物質のグローバル輸送	800/240
三谷 曜子	分担	基盤 A	海洋溶存酸素濃度の変動が中深層生態系高次捕食動物に与える影響の評価	300/90
伊谷 原一	分担	基盤 A	戦争と協力の進化:集団間競争と集団内協力の比較認知科学的検討	400/120
平田 聡	分担	基盤 A	戦争と協力の進化:集団間競争と集団内協力の比較認知科学的検討	400/120
徳山 奈帆子	分担	基盤 A	戦争と協力の進化:集団間競争と集団内協力の比較認知科学的検討	400/120
古市 剛史	分担	基盤 A	学際的統合研究によるアフリカにおける人と動物の相互関係の解明とその実践への応用	150/45
徳山 奈帆子	分担	基盤 A	学際的統合研究によるアフリカにおける人と動物の相互関係の解明とその実践への応用	2,550/765
新宅 勇太	分担	基盤 A	他者から学ぶ・他者と学ぶ 問題解決の創発と伝播に関する社会学習の比較認知科学研究	600/180
相馬 拓也	分担	基盤 A	ヒマラヤの人と自然の連環:東西3地域の比較	500/150
村山 美穂	分担	基盤 B	希少ネコ科動物における繁殖率と年齢構成の情報に基づいた絶滅リスクの比較定量化	300/90
村山 美穂	分担	基盤 B	「見つめる目」を受け取る個性と脳多様性	100/30
村山 美穂	分担	基盤 B	頭足類の「個のない社会」の形成維持機構に関する鳥類・哺乳類との比較研究	200/60
三谷 曜子	分担	基盤 B	知床周辺海域における海洋高次捕食者のホットスポット形成機構の解明	120/36
松田 一希	分担	基盤 B	料理がヒトの食性の進化に与えた影響の解明	100/30
徳山 奈帆子	分担	基盤 B	料理がヒトの食性の進化に与えた影響の解明	100/30
村山 美穂	分担	国際共同研究強化 B	巨大齧歯類の家畜化によるアフリカ食糧問題への貢献と新規実験動物の開発	600/180

7.2. その他の研究費

受入者	研究課題	種別	金額(千円)
野生動物研究センター	沿岸環境課題 北極海における沿岸環境の変化とその社会影響	国立大学法人北海道大学	5,000
野生動物研究センター	世界自然遺産・知床をはじめとするオホーツク海南部海域の海水・海洋変動予測と海洋生態系への気候変動リスク評価	国立大学法人北海道大学	1,360

野生動物研究センター	生殖細胞を活用した絶滅危惧野生動物の生息域外保	環境再生保全機構	29,224
野生動物研究センター	脳コネクトームと社会行動の遺伝基盤の解析		5,000
野生動物研究センター	令和5年度有害生物(オットセイ)生態把握調査委託事業	地方独立行政法人北海道立総合研究機構	3,463
野生動物研究センター	希少鳥類保全のための配偶子保存技術の開発		499
野生動物研究センター	ミンククジラ2系群のヒゲ板に含まれている安定同位体比を用いた摂餌履歴の推定	日本鯨類研究所	3,000
野生動物研究センター	情報発信体制の整備とプロジェクトの総合的推進	文部科学省	8,614

7.3. 寄附金

受入者	寄附の目的	種別	金額 (千円)
村山 美穂	応用生物科学における研究助成		500
福祉長寿研究部門	チンパンジーの福祉と長寿に関する研究	三和化学研究所寄附金	42,938
伊谷 原一	霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院(PWS)に関する教育・研究助成		821
伊谷 原一	熊本サンクチュアリのチンパンジー肝炎治療薬	クラウドファンディング	22,352
Michael Huffman	M. A. Huffman先生に対する研究助成		1,131
三谷 曜子	ラッコの調査研究		430
橋本 千絵	非ヒト霊長類(NHP)における尿中オキシトシン測定系開発と生物学的バリデーション	予防衛生協会	1,000
Andrew MacIntosh	Staying alive: unveiling the physiological and ecological drivers of translocations success in slow loris	長尾自然環境財団	1,458
Andrew MacIntosh	動物園における動物の行動研究のため	京都市動物園	650

8. 大型プロジェクト

8.1. ナショナルバイオリソースプロジェクト(GAIN)

GAIN: 大型類人猿情報ネットワークの展開

事業名称「情報発信体制の整備とプロジェクトの総合的推進」(大型類人猿情報ネットワークの展開、英文学名 Great Ape Information Network, 略称 GAIN, 事業代表者: 平田聡)は、文部科学省の主導によるナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)の一環として平成 14 年度に発足した。令和 4 年度より第 5 期となり、その 2 年目(通算 22 年目)となった。飼育施設と研究者を結ぶネットワークや個体情報データベースのさらなる充実をめざしている。令和 2 年度より、野生動物研究センターを経理部局としている。野生動物研究センターとヒト行動進化研究センター(EHUB)の両部局の共同運営事業と位置付けており、綿貫宏史朗(野生動物研究センター特定研究員)と川上博加(野生動物研究センター技術補佐員)の 2 名の職員が実務にあたった。また親事業である「情報発信体制の整備とプロジェクトの総合的推進」を統括する国立遺伝学研究所(代表機関課題管理者: 川本祥子)から厚いご支援をいただいた。令和 5 年度事業としては、従来と同様に、死亡や出生に応じて迅速にデータベースを更新することができた。

令和 6 年 3 月 31 日現在で、チンパンジー 290 個体(45 施設)、ボノボ 6 個体(1 施設)、ゴリラ 20 個体(6 施設)、オランウータン 37 個体(16 施設)、テナガザル類 159 個体(44 施設)が国内で飼育されている。個体ごとの生年月日や家系情報に加えて、DNA 情報・行動情報についても整備をすすめた。すでに死亡した個体も含め、チンパンジー 1,086 個体、ボノボ 9 個体、ゴリラ 123 個体、オランウータン 257 個体、テナガザル 618 個体分、総計 2,093 個体(うち現存個体 512 個体)分の情報データベースとなった(令和 4 年度末比+7 個体)。また、死亡個体由来の試料については EHUB 資料委員会が管理し、EHUB の研究利用規定にのっとった配布を進めた。令和 5 年度中に国内で死亡した類人猿 21 個体中 9 個体分の遺体由来試料と、1 個体分の非侵襲的資料(分娩時の胎盤)が EHUB に提供された(EHUB で死亡した飼育個体を含む)。EHUB 外に収蔵された死亡 3 個体についての研究利用可能情報も発信した。GAIN を経由した資試料の利用または情報の参照により令和 5 年度中に発表された学術論文は 4 件(いずれも英文国際誌)であった。さらに、本事業のデータベースは世界的にも貴重な情報の源であることに鑑み、英語版 Web サイトもリアルタイムで更新し、世界に向けて日本の大型類人猿の情報を発信した。(綿貫宏史朗・武田康祐)

8.2. 文部科学省博士課程教育リーディングプログラム(オンリーワン型)

概要

平成 25 年 10 月 1 日に採択され発足した当プログラムは、日本の他の大学に類例のない、フィールドワークを基礎とするプログラムである。学内の研究者に加えて、環境省職員、外交官、地域行政、法曹、国際 NGO、博物館関係者などからなるプログラム分担者をそろえ、3 つのキャリアパスを明確に意識した体制を構築した。

採択当初から 3 年次編入制度を導入していることにより、2023 年度は 5 学年 21 名の履修生がそろい、2 名の仮修了生および 2 名の修了生を輩出した。

① プログラムの実施・運営:

2023 年度は 8 実習「行動生態実習」「野外生物学実習」「野外生物学分析実習」「動物福祉実習」「基礎フィールドワーク実習(無雪期・積雪期)」「野生動物・動物園科学基礎論」「自主フィールドワーク実習」「海生哺乳類実習」を選択必修に設定した。行動生態実習(2023/5/15-5/21)、野外生物学実習(2023/2/6-2/12)、野外生物学分析実習(2023/10/24-10/27)、動物福祉実習(2023/11/24 - 2023/11/27、2024/03/06 - 2024/03/09)、基礎フィールドワーク実習(無雪期)(2023/11/7-11/9)、野生動物・動物園科学基礎論(2023/6/23/6/25)、海生哺乳類実習(2023/4/21-4/25)を開催した。

- 行動生態実習: 日本の霊長類学の発祥の地である宮崎県幸島において、天然記念物である幸島の野生ニホンザルを観察して、糞の採集から食物となった植物を同定するなど、各自がくふうしたテーマで研究をおこない、野外研究の基礎を学ぶ。
- 野外生物学実習: 屋久島観察所などを利用して野外でフィールドワークを行う。この実習では、新しい研究テーマにも取り組み、探索的な研究に挑戦する。参加者は積極的に調査に参加することで、野外調査の経験を積む。

- 野外生物学分析実習：近年の野外研究では、分子生物学的な手法や、自動撮影カメラや無人航空機など機材が用いられる。野外研究での応用を視野に入れた、遺伝学や生理学の実習を行ったり、野外実習等で収集したデータを解析したりすることで、野外調査における分析の経験を積む。
- 動物福祉実習：野生動物研究センター・熊本サルクチュアリにて、飼育下の動物の動物福祉について、講義と実習によって学ぶ。動物福祉の向上を図る実践的取組としての環境エンリッチメント、採食エンリッチメント、認知的エンリッチメント、およびこれらの実践と評価のために必要な行動観察や比較認知科学研究の手法について、実習によって習得する。
- 野生動物・動物園科学基礎論：日本モンキーセンターにおいて、PWS 教員・キュレーター・飼育技術員・獣医師を講師としたレクチャーを受け、現場で飼育実習を行い、教育普及活動にも参加する。PWS の3つの出口のうちのひとつである「博士学芸員」の仕事について学ぶとともに、霊長類及びワイルドライフサイエンスの環境教育の実践に触れる。
- 基礎フィールドワーク実習（無雪期・積雪期）：国内のフィールドにおいて、無雪期と積雪期に生物観察や登山、夜間のビバーク体験（戸外での緊急露營）など、フィールドワークの基礎となるサバイバル技術を学ぶ。
- 海棲哺乳類実習：北海道大学水産学部附属練習船おしよる丸の船上において、海棲哺乳類の調査手法を学ぶ。船上では、安全に関するレクチャーを受け、船上生活を実際に経験する。天候・努力量・目視記録の方法を学び、目視調査についての手法について、実習によって習得する。
- 自主フィールドワーク実習：自主企画の海外研修を行うことで、履修生の自発的なプランニング能力の向上を図り、出口となる保全の専門家や、キュレーターや、アウトリーチ活動の実践者の育成につながる。

② 連携体制の維持・強化：

履修生を広く深く支援する教育研究体制を強化した。プログラムの意思決定は、学内分担者の全員からなる月例の協議員会で、その中枢としてヘッドクォーター（HQ）制度をとった。コーディネーターを含む6名のHQがいて、諸事の運営を審議する。特定教員3名をはじめ、英語に堪能な事務職員を配置し、協力して履修生をサポートした。プログラムの方針・運営状況・カリキュラム・成果・履修生の動向などについて、対内外の情報・広報は、すべて一元的にHP (<http://www.wildlife-science.org/>) に集約して共有した。The 18th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (2023.11.16-11.18) で、履修生や外国人協力者(IC)も含めた現地31名、オンライン166名参加があり、質疑応答と総合討論では保全活動の実践に研究をどのように生かすかや、保全活動の際の困難についての議論が交わされた。

学外との連携について、プログラムの「実践の場」として、19の動物園・水族館・博物館と連携協定を結んでいるが、特に公益財団法人日本モンキーセンター（以下 JMC）や京都市動物園では、履修生によるアウトリーチ活動を可能な範囲で実施した。特に、高大連携事業に協力し、JMC や京都市動物園等を適宜活用した。JMC 発行の季刊誌「モンキー」の刊行については、本プログラムが全面的に協力し、プログラムの活動PRの媒体となっている。国内ワイルドライフサイエンスとの連携も継続しており、特に屋久島は実習で訪れるなかで「屋久島学ソサエティ (<http://yakushimagakusociety.hateblo.jp/>)」を中核とした地域住民との協働が緊密である。

③ キャリアパスを見据えた履修生の自主性の涵養と支援：

必修の「自主フィールドワーク実習」では、履修生が自主企画の海外研修をおこなうことで、自発的なプランニング能力の向上を図り、出口となる保全の専門家や、キュレーターや、アウトリーチ活動の実践者の育成につながっている。個人的なフィールドワークに限らず、履修生のイニシアチブによる自主企画の取組も奨励し、運営・実践能力の涵養を図った。

④ 優秀な履修生の継続的な獲得と支援：

3年次編入制度、春秋の国際入試を実施し、秋入学者へのカリキュラム対応を整備して、優秀な留学生を獲得した。広報努力を継続し、HPを見ればプログラムのすべてがわかるようにした。学部生や高校生を対象としたプログラム担当者による実習も引き続き実施していて、優秀な自大学出身者の獲得につながっている。奨励金の給付はおこなっていないが、その代わりに履修生の実習旅費（航空券代や日当宿泊費）を全面的に支援した。

2023 年度活動状況

※略語:PWS=霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院、WRC=野生動物研究センター、PRI
=霊長類研究所、KS=熊本サクチュアリ、JMC=公益財団法人日本モンキーセンター

※PWS 主催のものについては、主催者の記載を省略

4 月	12 日	PWS 協議員会 (第 95 回)
		PWS 履修生面談@京都
	17 日	PWS 履修生面談@犬山
5 月	17 日	PWS 協議員会 (第 96 回)
		PWS 履修生面談@京都
	24 日	PWS 履修生面談@犬山
6 月	15 日	PWS 協議員会 (第 97 回)
		PWS 履修生面談@京都
	21 日	PWS 履修生面談@犬山
	28 日	大学院横断教育プログラム運営委員会 (第 9 回)
7 月	12 日	PWS 協議員会 (第 98 回)
		PWS 履修生面談@京都
	19 日	PWS 履修生面談@犬山
8 月	30 日	大学院横断教育プログラム運営委員会 (第 10 回)
9 月	21 日	臨時メール審議
	27 日	大学院横断教育プログラム運営委員会 (第 11 回)
10 月	11 日	PWS 協議員会 (第 99 回)
		PWS 履修生面談@京都
	18 日	PWS 履修生面談@犬山
	30 日	大学院横断教育プログラム運営委員会 (第 12 回)
11 月	15 日	PWS 協議員会 (第 100 回)
		PWS 履修生面談@京都
	22 日	PWS 履修生面談@犬山
	27 日	大学院横断教育プログラム運営委員会 (第 13 回)
12 月	13 日	PWS 協議員会 (第 101 回)
		PWS 履修生面談@京都
	20 日	PWS 履修生面談@犬山
1 月	24 日	PWS 協議員会 (第 102 回)
		PWS 履修生面談@京都
	31 日	PWS 履修生面談@犬山
2 月	14 日	PWS 協議員会 (第 103 回)

	14日	PWS 履修生面談@京都
	21日	PWS 履修生面談@犬山
	28日	大学院横断教育プログラム運営委員会（第14回）
3月	13日	PWS 協議員会（第104回）
		PWS 履修生面談@京都
	19日	PWS 履修生面談@犬山
	28日	大学院横断教育プログラム運営委員会（第15回）

8.3. 国立環境研究所との共同プロジェクト

国立環境研究所とは2013年に連携協定を締結し、絶滅危惧種のゲノム解析、細胞培養、精子保存などに関する共同研究を推進している。以前より行っているイヌワシのゲノム解析の共同研究を継続した。また英国との国際共同研究を実施した。2023年度はイヌワシの保全に関するオンラインセミナーを実施した。また9月にはエディンバラ大学の研究者らを迎えて、スコットランド南部のイヌワシの放鳥に関するセミナーや公開シンポジウムを開催した。さらに保全生物学コンソーシアム(http://web.cc.iwate-u.ac.jp/~takehito/wild_animal/index.html)のグループで、イヌワシやヤンバルクイナの生息域外保全に関する共同研究を行った。野生動物の絶滅を防ぐためのゲノム、細胞、生態の研究推進に向けた協力体制を整備した。「野生動物遺伝資源データベース」を共同運営し、当センターの保有するデータの一部を公開した。（http://www.nies.go.jp/time_capsule/search.php参照）

8.4. 環境研究総合推進費

絶滅の危惧される野生動物種については、保護増殖事業計画が策定され、野生復帰を目指した飼育下繁殖が行われている。しかし自然繁殖が順調でない種や、飼育集団の遺伝的多様性の維持が課題となっている種がある。繁殖に関連する機能遺伝子の個体差や多様性も種の存続に大きく影響するが、その実態は不明である。また個体ごとのストレスや繁殖周期の指標となるホルモン動態は、繁殖の成否を左右するため正確に把握する必要がある。さらに将来の安定した遺伝資源確保のためにも、生殖細胞や受精卵の保存技術も検討する必要がある。

本研究では、これらの問題解決のため生殖細胞の活用範囲を広げる。繁殖に関わるゲノムや内分泌情報を基盤として、保存生殖細胞を用いた人工授精や受精卵作製といった繁殖補助技術確立する。哺乳類はツシマヤマネコ、鳥類はヤンバルクイナを主な対象とする。DNA、ホルモン、生殖細胞の試料および関連情報を蓄積し、それらを連携することによる保護増殖への貢献を目指すため、2つのサブテーマを設定する。**サブテーマ1の繁殖基盤情報の整備**で、国立環境研究所(研究協力機関)に保存されている遺伝資源(細胞、組織等)および非侵襲的に得られる糞や羽根に由来するDNAを解析して、遺伝的多様性、行動や性格の個体差、内分泌機能などの繁殖に影響する要因の**関連遺伝子**を探索するとともに、同じ糞や羽根から繁殖機能に関わる性ホルモンやストレスのバイオマーカーである副腎皮質ホルモン等の濃度を測定し、**遺伝的多様性や近交度、年齢、性格、ストレス**が繁殖機能低下に与える影響を評価する。**サブテーマ2の生殖細胞の活用と人工繁殖**では、まず基盤情報が充実しているイエネコやニワトリをモデル動物として**生殖細胞保存法**を新規開発する。次いでその手法を国立環境研究所(研究協力機関)、京都大学、岩手大学で保存中のツシマヤマネコとヤンバルクイナの生殖細胞を活用して種ごとに最適化し、将来的により多くの個体で繁殖を可能とする**繁殖補助技術**を確立する。

2021年度には、飼育および野生の多数個体の試料と情報の蓄積を行い、遺伝マーカー解析やホルモン濃度測定条件を整備する。2022年度は試料を活用して、性ホルモンやストレスホルモン濃度をモニターする。また遺伝的多様性を評価するマーカーを標準化するとともに、繁殖機能低下の要因となるストレス感受性や社交性などの性格、加齢、内分泌機能に関わる遺伝子の同定と機能解析を実施した。最終年度の2023年度は、それによって策定した有効な繁殖戦略を飼育施設に提案する。ツシマヤマネコでは遺伝情報が得られた個体の生殖細胞保存および受精卵の作製、ヤンバルクイナでは保存生殖細胞を用いた人工授精による産子の作出を目指した。本課題の成果物である生殖細胞と受精卵は国立環境研究所において長期凍結保存を行い、将来の緊急時に備えた。以上のように、ゲノム情報やホルモンレベルと繁殖機能の解析情報の整備と生殖細胞の保存体制を進めることができた。ツシマヤマネコおよびヤンバルクイナにおいて目標の成果が得られたのに加え、ネコ科や猛禽類の他の絶滅危惧種にも応用できる成果を得て、活用範囲を広げることに成功した。ツシマヤマネコおよびヤンバルクイナでは、飼育ほぼ全個体について、繁殖成績とゲノム、ホルモン、行動の関連を解析し、繁殖の基盤情報のデータベースを整備し、生殖細胞保存との連携の例を示した。飼育施設とのネットワーク強化により飼育及び野生の死亡個体から速やかに保存できる体制を整備して多数の生殖細胞を保存し、ネコやニワトリをモデルとした保存および培養技術を開発した。本研究の成果は環境施策に大きく貢献し、また、他の絶滅危惧種の保全への応用が期待できる。すでに個体群存続可能性解析の結果やホルモン、行動観察の情報飼育施設と共有している。2023年12月には公開シンポジウム「野生動物ラボの挑戦-ヤンバルクイナとツシマヤマネコ保全の最前線-」と題した公開シンポジウムを開催した。http://web.cc.iwate-u.ac.jp/~takehito/erca_4-2101/

9. 動物園・水族館との連携

9.1. 動物園・水族館との連携事業・共同研究

京都市動物園 (<https://www5.city.kyoto.jp/zoo/> 参照)

- 1) 京都市動物園「野生動物学のすすめ 2023」レクチャー
- 2) 動物園での講演活動: 動物の生態や動物園でおこなう研究, 動物福祉について
- 3) 京都市動物園連絡協議会 (10 回/年)
- 4) 飼育下野生動物を対象にした多様な研究
- 5) 京都市動物園開園 120 周年記念シンポジウム

日本モンキーセンター (<https://www.j-monkey.jp/> 参照)

- 1) 公益財団法人日本モンキーセンターの運営
- 2) 飼育施設改修計画: 展示開発、基本設計
- 3) 日本学術振興会科学研究費 基盤 C (2013~2025 年度)「動物園と高等学校等の連携による「総合的な探究の時間」の実践」、基盤 C (2020~2023 年度)「新学習指導要領下における博物館学校連携の継続的・定量的評価の試み」、特別研究員奨励費 (2022~2023 年度)「野生動物保全とワンヘルスのためのヒトとゴリラの社会的絆の共創」、特別研究員奨励費 (2022~2026 年度)「「子はかすがい」仮説: ベニガオザルのアカンボウが寛容的社会で担う役割の解明」
- 4) 大型類人猿情報ネットワーク(GAIN)との連携
- 5) 英文学術雑誌”Primates”(6 巻)及び和文雑誌「モンキー」(4 巻)の発行
- 6) 連携研究の受け入れ
- 7) 国際保全活動: コンゴ民主共和国: バリ(ボノボ)
- 8) 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院・高大連携プロジェクトへの協力
- 9) 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院・博物館・動物園実習

※その他の連携動物園・水族館との活動は

<http://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/ZoosAquariums.html> を参照

9.2. 動物園大学・水族館大学

- 1) WRC との合同セミナー開催(動物園水族館・野生動物研究者のための ABS セミナー, 人獣共通感染症に関するセミナー)
- 2) シンポジウム 2024 年 3 月 9-10 日: 「動物園水族館が「野生への窓」となるために」
 - 3 月 9 日: 京都大学理学研究科セミナーハウスおよびウェビナーのハイブリッド形式
 - 3 月 10 日: 京都大学理学研究科セミナーハウスでの対面参加のみ

10. 国内研究拠点・国内機関との共同研究

10.1 幸島観察所

1) 幸島のニホンザルに関する報告

幸島観察所では、例年通り宮崎県幸島に生息する野生ニホンザルを対象に個体データの蓄積、各個体の体重計測などの基礎データの収集を行った。出産頭 8 頭、死亡頭数 2 頭（内アカンボウ 2 頭）で 6 頭増であった。2024 年 3 月現在、91 頭である。主群 α オスは「シカ」から「グレ」に、マキ群は「ヘソ」から「カサゴ」になった。

2) 施設に関する報告

- ・職員ができる軽微な修繕のみで大掛かりな修繕は行わなかった。
- ・老朽化した食器棚を入れ替え衛生環境を改善した。

3) 研究・教育に関する報告

今年度は学内の研究者を中心に、国内の大学院生や研究者による研究が活発に行われた。都井岬での野生馬調査の研究拠点としてもよく利用された。

野外実習では京都大学野生動物研究センター学生実習が行われた。

普及啓発活動として京大ウィークス 2023 に参加し公開講座を実施した。また、串間市役所の研修、小学校の校外学習や授業の講師として協力した。報道も数件依頼（内 1 件は海外）があり、協力した。

10.2. 屋久島観察所

1) 安全対策

2023 年 2 月 4 日に、屋久島観察所を拠点としてニホンザルの研究調査をしていた、当研究センター所属の大学院生が滑落事故により亡くなった。

この事故を受けて、事故の直後から 2023 年 5 月 31 日まで屋久島観察所の利用を中止した。学内の他部局を含む事故調査委員会を設置し、事故原因の究明と今後の安全対策について検討し、一定の目処がたったため、2023 年 6 月 1 日より、安全に十分留意することを条件として利用を再開した。主な条件としては、大学院生が野外調査をする場合は、観察所の利用者が 2 名以上いることである。安全確認や緊急時の対応をするために、このような条件での利用をお願いした。なお、この制限は 2024 年 4 月 22 日まで継続した。また登山用のヘルメットの貸出や、安全対策に関する実習などを新たに行い、野外調査の安全向上に取り組んだ。

新型コロナウイルスの取り扱いが 2023 年 5 月に緩和されたことに伴い、同感染症に関する制限をなくした。

2) 研究・教育

WRC の屋久島実習を 1 回実施した（野外生物学実習）。地域学会である「屋久島学ソサエティ」の第 11 回大会を野生動物研究センターが後援した。

3) 施設

- ・全学支援経費（隔地施設維持支援）による改修が行われることが決定し、トイレと風呂の全面的な改修を行うことが決まった。2023 年 2 月に、現地で詳細な打合せを行い、具体的な案をほぼ決定した。2024 年度に工事を行う予定である。

10.3. 熊本サンクチュアリ

熊本サンクチュアリにおいて飼育しているチンパンジー個体数は 2023 年度末時点で 49 個体となった。2023 年 6 月にオウム(雌 47 歳)が急性腎盂腎炎により、8 月にニッキー(雄 34 歳)が急性壊死性膵炎によりそれぞれ死亡した。前年度までブリーディングローンで供している京都市動物園のジェームス、および愛媛県立とべ動物園のロイとツバキは、それぞれ貸出契約を延長し、引き続き各動物園で飼育をおこなっている。熊本サンクチュアリのチンパンジーについて、第 1 飼育棟には雄 13 個体 (2~4 群)、第 2 飼育棟には雄 11 個体 (2~4 群)、第 5 飼育棟には雄 5 個体と雌 20 個体 (4~5 群) が様々に構成を変えながら社会生活を送っている。また、第 5 飼育棟には、ボノボ 6 個体が 2 群で暮らしている。定期健康診断をチ

ンパンジー9 個体で実施した他、一斉糞便寄生虫検査、エルシニアスクリーニング PCR 検査等を実施した。肝炎治療薬購入のためのクラウドファンディングを実施し、計 2,419 万円の寄付をいただいて、過去の医学実験により C 型肝炎ウイルス持続感染となっている個体の治療を実施した。

3 名の大学院生が熊本サンクチュアリに長期滞在して学位論文のための研究をおこなった。共同利用共同研究に関しては、研究利用が 5 件 433 人日、試料分譲が 1 件だった。ホームページ (<http://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/kumasan/>) を毎月更新し、KS 活動の普及広報に努めた。

10.4. 独立行政法人理化学研究所

「霊長類（マカクサル・マーモセット）の遺伝子多型と分子イメージングとの関連」に関する研究契約を継続した。2023 年 7 月には、日本霊長類学会で大学院生が共同研究の成果を発表し、ポスター賞を受賞した。またエディンバラ大学の研究者が来日した際などに、霊長類の性格評定に関する研究打合せを行った。

11. 共同研究者訪問履歴表

訪問日	終了日	日数	所属		人数	訪問目的
2023/6/1	2023/8/11	50	Middlebury 大学、アメリカ	学部生	1	研究
2023/4/3	2023/6/28	60	Benha 大学、エジプト	研究者	1	研究
2023/5/8	2023/5/29	4	京都大学	院生	1	研究
2023/9/9	2023/9/23	15	South Bihar 中央大学、インド	研究者	1	研究
2023/9/9	2023/9/23	15	National Institute of Animal Nutrition and Physiology、インド	研究者	1	研究
2023/4/13	2024/3/25	9	京都大学	院生	1	研究
2023/12/18	2024/3/27	2	京都市動物園	研究者	1	研究
2023/9/29	2023/9/29	1	玉川大学	研究者	1	研究
2023/7/31	2023/7/31	1	大阪大学	研究者	1	研究
2024/3/22	2024/3/22	1	京都大学	院生	1	研究

12. 研究集会

1) 京大ウィークス 2023 「幸島ニホンザルの観察会」

日時:2023年11月5日

場所:幸島

主催:京都大学野生動物研究センター

募集人数:20名、京大ウィークス2023の関連イベントとして公開講座を開催

2) Academic Symposium on Primatology and Wildlife Science

日時:2023年11月16-18日

場所:京都大学 理学セミナーハウス

場所:現地会場(京都文化教育センター)およびオンライン(ハイブリッド形式)

主催:京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

参加人数:197名(現地31名、オンライン166名)

本シンポジウムの詳細は下記 URL に記載の通りである。

(<https://pws.wrc.kyoto-u.ac.jp/en/symposium/2023-11/>)

3) 公開シンポジウム「野生動物ラボの挑戦 -ヤンバルクイナとツシマヤマネコ保全の最前線」

日時:2023年12月9日

場所:キャンパスプラザ京都第4講義室およびオンライン(ハイブリッド形式開催)

主催:環境研究総合推進費 4-2101「生殖細胞を活用した絶滅危惧野生動物の生息域外保全」

共催:京都大学野生動物研究センター

後援:日本野生動物医学会

協力:環境省野生生物課希少種保全推進室

本シンポジウムの詳細は下記 URL に記載の通りである。

(http://web.cc.iwate-u.ac.jp/~takehito/erca_4-2101/posts/news22.html)

4) 第11回屋久島学ソサエティ大会

日時:2023年12月16-17日

場所:屋久島町役場フォーラム棟およびオンライン(ハイブリッド形式)

主催:屋久島学ソサエティ

共催:屋久島町、公益財団法人屋久島環境文化財団、京都大学野生動物研究センター、

本シンポジウムの詳細は下記 URL に記載の通りである。

(<https://yakushimaology.org/2023/10/06/11th-2/>)

5) 共同利用研究会 2023

日時:2024年2月22日

場所:京都大学野生動物研究センターおよびオンライン(ハイブリッド形式)

主催:京都大学野生動物研究センター

共催:京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

参加人数:約99名

本研究会の詳細は下記 URL に記載の通りである。

(<https://sites.google.com/kyoto-u.ac.jp/wrcworkshop/2023>)

6) 第11回DNA細胞データベース検討会-性判定技術研修

日時:2024年3月5日

場所:オンライン

主催:京都大学野生動物研究センター

本研究会の詳細は下記 URL に記載の通りである。

(<https://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/news/2024/2024-03-05.html>)

7) 動物園水族館大学シンポジウム「動物園水族館が「野生への窓」となるために」

日時:2024年3月9-10日

場所:京都大学理学研究科セミナーハウスおよびオンライン(ハイブリッド形式)

主催:京都大学野生動物研究センター

共催:京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院、京都市動物園、名古屋市東山動物園、(公財)横浜市緑の協会(よこはま動物園、野毛山動物園、金沢動物園)、熊本市動植物園、高知県立のいち動物公園、(公財)日本モンキーセンター、わんぱーくこうちアニマルランド、愛媛県立とべ動物園、広島市安佐動物公園、名古屋港水族館、京都水族館、西海国立公園九十九島水族館、海遊館、滋賀県立琵琶湖博物館、いおワールドかごしま水族館、沖縄美ら海水族館

後援:(公社)日本動物園水族館協会、京都市教育委員会、京都府教育委員会

参加人数:181名(オンライン)、対面参加者137の計318名

本研究会の詳細は下記URLに記載の通りである。

(動物園水族館大学: <https://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/projects/za/2024-03.html>)

13. 海外拠点・海外機関との研究交流等

海外の野外調査地におけるカウンターパートとして、次に掲げる組織と連携して共同研究、学生教育をしている実績を有し、連携協定も締結している。

マレーシア・サバ財団、インドネシア・ボゴール農科大学(現 IPB 大学)、タンザニア・野生動物研究所、コンゴ民主共和国・キンシャサ大学内ユネスコ、ウガンダ・チンパンジーサンクチュアリー、キルギス共和国・国立科学アカデミー／キルギス＝トルコ・マナス大学／日本人材開発センター、ポルトガル・コインブラ大学である。

さらに、以下の研究機関とも連携して研究・教育活動をおこなっている。

セントアンドリュース大学、ストラスブルク大学、カリフォルニア工科大学、マックスプランク進化人類学研究所、リンカーンパーク動物園、インド科学大学、マレーシア・国民大学、マレーシア・サバ州野生生物局、マレーシア・サバ州森林局、パクアン大学(インドネシア)、アンダラス大学(インドネシア)、チュラーロンコーン大学(タイ王国)、西北大学(中国)、マケレレ大学(ウガンダ)、グリーンランド天然資源研究所である。

ガーナ大学拠点については、味の素AINプログラムの支援で行っている「ガーナにおける地元産動物性タンパク質の加工保存による住民の栄養改善」の3年目にあたり、2024年2月に村山がガーナを訪問して、ガーナ大学の研究者やプロジェクト対象の飼育農家とワークショップを開催した。ガーナ大学の飼育施設を見学し、在ガーナ日本大使館、国際協力機構、味の素ガーナ事務所を訪問して、今後の研究について報告と打合せを行った。

研究協力協定を締結しているオーストラリア博物館を2023年11月に訪問して、試料の保存について見学し、共同研究について打ち合わせた。

14. 海外渡航

義村 弘仁	2023.4.27-5.22	シヤムシ-野生保護区・ サリチャット・エルタシュ自然保護区 (キルギス)	現地共同研究機関 Snow Leopard Foudation in Kyrgyzstan とともに当該 研究課題に係る現地調 査、データ収集	科研費 (特別研究員)
内藤 アンネグレート 素	2023.5.18-5.28	台北市立動物園・ 高雄市寿山動物園 玉山国家公園内のクマカ営巣 地 (台湾)	当該プロジェクトにかかるサン プル輸出、クマカ及び他の 鳥類種の生息域外保全・ 飼育個体群管理に関する 情報収集	科研費 (特別研究員)
相馬 拓也	2023.5.21-6.21	ヒヴァ旧市街区イチャカラ城壁市 街・第2学校・プハラ国立図書 館プハラ国立大学・歴史博物 館(ウズベキスタン)	当該プロジェクトにかかる資 料、データ収集、インタビュー 調査	科研費 (白眉・新学術・基盤 B)
SHODIEVA Shukrona	2023.5.21-6.21	ヒヴァ旧市街区イチャカラ城壁市 街・第2学校・プハラ国立図書 館プハラ国立大学・歴史博物 館(ウズベキスタン)	当該プロジェクトにかかる資 料、データ収集、インタビュー 調査	科研費(白眉)
Michael Huffman	2023.5.26-6.6	サン・フランシスコ・デ・キト大学・チャ ールスターウイン・コンベンションセンタ ー(エクアドル)	研究打合わせ・ Gastronauts シンポジウム 参加による、腸脳研究にか かる情報収集	先方負担 (Gastronauts Sym- posium)
古市 剛史	2023.6.11-7.19	マケレレ大学・カインズ森林調査地 (ウガンダ)	当該プロジェクトにかかる研 究打合せ、野生チンパンジー の生態調査	科研費(基盤 B)
古市 剛史	2023.7.20-7.27	生態森林研究所 (コンゴ民主共和国)	当該プロジェクトにかかる研 究打合せ	先方負担(Arcus Foundation)
松田 一希	2023.6.18-6.29	マレーシア国民大学・サハ大学・ キナバタンガン川下流域一帯 (マレーシア)	Badrul Munir Md.Zain 教授と当該プロジェクトにか かる研究打合せ、現地野 外調査	科研費 (挑戦的研究・萌芽)

Michael Huffman	2023.6.28-7.6	whitethorn Equine Health・ トリニティ・カレッジ・ダブリン (アイルランド)	研究打合せ、GA2023 学 会に参加し薬用植物研究 に関する情報収集	先方負担 (Amimal Healthcare and Veter- inary Phytotherapy)
竹元 博幸	2023.7.15-2024.1.11	カリンズ森林保護区・マケレレ大学 (ウガンダ)	当該プロジェクトにかかる野 生チンパンジーの生態調査・ 資料収集	科研費 (国際共同研究 強化 B 橋本)
Michael Huffman	2023.7.22-7.26	フーシャン・リサーチ・センター (中華民国)	International Ecology School2023 に参加し、講 演及び情報収集行う	先方負担 (International Ecology School and So- ciety of Subtropical Ecology)
櫻木 雄太	2023.7.30-8.23	イルリサット沿岸部および漁港・ カナック・クラブ・ハウス (グリーンランド)	当該プロジェクト推進にかか る情報収集、研究打合せ	受託・北大 (極地研 ArCS II)
板原 彰宏	2023.8.9-8.24	ビーレフェルト大学 (ドイツ)	Behavior2023 会議に参 加、当該プロジェクトにかかる 情報収集及び発表	科研費 (特別研究員)
相馬 拓也	2023.8.10-8.24	ペルー国立考古学博物館・イン カ博物館 (ペルー)	新学術領域にかかる、動 物骨や遺物の分析	先方負担 (同志社大)
徳山 奈帆子	2023.8.20-9.1	サバ州立博物館・サバ大学・ク ラス川 (マレーシア)	野生動物保全状況に関す る資料収集および聞き取り 調査、野生テングサルの観 察	寄附金 (くすのき 125)
松田 一希	2023.8.18-8.29	ボルネオコンベンションセンターク チン (BCKK)・サバ州野生生物局・ キナバタンガン川下流域一帯 (マレーシア)	国際霊長類学会大会に参 加、当該プロジェクトにかかる 情報収集、現地調査	科研費 (国際共同研究強化 B)

橋本 千絵	2023.8.19-9.14	カリンズ森林保護区・マケレ大学 (ウガンダ)	当該プロジェクトにかかる研究連絡、野生チンパンジーの生態調査	科研費 (国際共同研究強化B)
廣澤 麻里	2023.8.30-9.9	エジンバラ動物園・ロンドン動物園 (イギリス)	Charlotte Smith さん(Director of Conservation Education)らと面会	先方負担(日本モンキーセンター)
徳山 奈帆子	2023.9.4-10.15	マケレ大学動物昆虫水産学部門・カリンズ森林保護区・エンテベ動物園 (ウガンダ)	当該プロジェクトにかかる現地調査、観察、データ収集	科研費(椋山女学園大学・松浦)基盤 A
Michael Huffman	2023.9.6-9.14	Universiti Malaysia sabah (マレーシア)	The 16 th International Congress of Physiological Anthropology での講演及び情報収集、研究打合せ	先方負担(藤井医学国際交流資金プロジェクト)
内藤 アンゲレート素	2023.9.10-9.19	キルギス共和国国立科学アカデミー・マナス大学理学部・Ala Archa 国立公園 (キルギス共和国)	キルギス農業省アドバイザーと当該プロジェクトにかかる研究打合せ	科研費 (特別研究員)
新宅 勇太	2023.9.11-9.20	国立自然史博物館・フィラデルフィア動物園・ヘンリー・ドリー動物園 (アメリカ)	動物園展示に関する調査	先方負担(日本モンキーセンター)
Michael Huffman	2023.9.27-10.4	Agricultural Biotechnology Research Center (中華民国)	Dr.Wen-Chin yang との研究打合せ	先方負担(Agricultural Biotechnology Research Center)
板原 彰宏	2023.10.9-12.10	ハイドルホフ研究基地 (オーストラリア)	当該プロジェクトにかかるデータ収集及び調査	科研費(特奨)

Michael Huffman	2023.11.4-11.26	スリジャヤワルデネプラ大学・ University of Peradeniya キャン パス周辺調査地・Ohiya 周辺 調査地(スリランカ)	サンプル整理及び調査準 備・野生霊長類の生態学 及び DNA 解析用サンプル 収集調査	寄附金・運営費
相馬 拓也	2023.11.4-11.14	タジキスタン国立図書館 (タジキスタン)	当該プロジェクトにかかる文 献調査、資料、情報収集	科研費(新学術)
相馬 拓也	2023.11.15-11.23	UNESCO 中央アジア研究所・サ マルカント旧市街・平山郁夫キヤ ラハンサイ美術館 (ウズベキスタン)	当該プロジェクトにかかるフィ ールド調査、研究打合せ	科研費(基盤 B)
SHODIEVA Shukrona	2023.11.4-11.14	タジキスタン国立図書館 (タジキスタン)	当該プロジェクトにかかるフィ ールド調査、研究打合せ	科研費(新学術)
SHODIEVA Shukrona	2023.11.15-11.23	UNESCO 中央アジア研究所・サ マルカント旧市街・平山郁夫キヤ ラハンサイ美術館 (ウズベキスタン)	当該プロジェクトにかかるフィ ールド調査、研究打合せ	科研費(新学術)
村山 美穂	2023.11.19-11.29	International Convention Centre・西オーストラリア大学 (オーストラリア)	IAF2023 に参加、当該研 究課題にかかる発表、情 報収集、研究打合せ	科研費(基盤 A)
徳山 奈帆子	2023.11.19-11.25	カオクラブック・カオタオモ ー保護区・ カオキア動物園(バンコク)	当該プロジェクトにかかる野 生ベニガオサルの観察、デー タ収集、現地調査	寄附金(創立 125 周年 記念事業)
三谷 曜子	2023.12.5-12.18	モーリシャス大学・モーリシャス島内 沿岸部(アラブ首長国連邦)	ブルーフロンティアプロジェクトに かかる研究打合せ、現地 調査	先方負担 (北海道大学)

徳山 奈帆子	2023.12.18-2024.1.8	The Reseach Institute for Tropical Ecology・ロペ国立公園 (ガボン共和国)	当該プロジェクトに関する研究打合せ、聞き取り調査	寄附金(創立 125 周年記念事業)
Michael Huffman	2024.1.6-1.16	ウィーン大学・コリンシア・アフェンバーク野猿公園(オーストラリア)	行動認知学部局の定期セミナーにて自身の研究実績と今後の計画について講演、研究打合せ	寄附金
藤原 摩耶子	2024.1.8-1.14	Colorado Convention Center (アメリカ合衆国)	第 50 回国際胚移植学会に参加、当該研究にかかる講演及び情報収集	受託
相馬 拓也	2024.1.8-1.20	シカ村中心集落・ホカラ駒カ根公園(ネパール)	当該プロジェクトにかかる地域植生と在来資源利用の伝統知の調査、データ収集	科研費(北海道大学・渡邊)基盤 A
善本 智佳	2024.1.29-2.7	キルギス・マナス大学理学部生物科学(キルギス)	当該研究にかかる遺伝子実験実施・データ収集・研究打合せ	機関経理補助金(次世代・研究費)
古市 剛史	2024.2.7-3.22	カリンズ森林保護区・マケレレ大学(ウガンダ)	当該プロジェクトにかかる野外調査のための情報収集・チンパンジーの生態調査	科研費(基盤B)
村山 美穂	2024.2.17-2.26	ガーナ大学・Wa Regional Office(ガーナ)	当該プロジェクトにかかる研究打合せ・現地調査・「GhanaGrasscutterProject Workshop」に参加	科研費(基盤 A)
相馬 拓也	2024.3.4-3.14	平山郁夫キャラハンサライ・ウスベキスタン国立図書館(ウズベキスタン)	当該プロジェクトにかかる考古学資料及び文献資料の分析、解読、情報収集	科研費(新学術)

15. 安全対策

2023年2月4日に当センターの大学院生が、調査中に滑落事故で亡くなった。この事故を受けて、あらためて安全対策を見直している。年報においても、安全への取組について記録を残すこととした。

死亡事故の調査と報告

事故の後、フィールド調査危機管理対策委員会を設置し、主に事故直後から2023年5月末まで、事故の原因や安全対策について検討した。

2023年5月12日に当センターで、6月16日に犬山キャンパスで、7月13日に理学研究科で、教職員と大学院生を対象に、対面で事故報告書に基づいた報告を行った。また、2023年3月20日に、屋久島の研究者向けにオンラインで報告を行い、安全対策に関する意見交換をした。

野外調査の安全管理のためのガイドラインの改定

事故を受けて、ガイドラインを大幅に改訂した。2023年6月15日に改訂版を承認し、以後、新しいガイドラインに従って調査を実施した。

野外観察施設での対応

事故を受けて、屋久島観察所では、事故直後から2023年5月31日まで共同利用研究のための利用を停止した。事故の原因と安全対策の見直しを行った上で、2023年6月1日より、利用を再開した。幸島観察所でもあらためて安全対策を見直し、その徹底を行った。新たに利用者へのヘルメットの貸出を始めたり、安全確認のために使用している無線機の更新を行うなど、機材の整備を行った。

安全講習の実施

1) 2023年4月5日 新入生、新規雇用者を対象とした安全講習

当センターに進学した大学院生を対象に、京都大学の安全衛生管理やセンターとして行っている安全対策の概要を説明した。また研究棟の非常口や、実験機器や低温保存庫の使用における注意点等を、実際に歩きながら確認した。

2) 2023年4月18日 安全講習会

センターで年度当初に行っている、安全講習会を実施した。山や海での野外調査、動物園等の飼育施設での調査、実験室での研究、自然災害など広く安全に関わる内容を取り上げた。過去の事故やヒヤリハットの事例や、安全対策の実践例などを紹介した。

3) 2023年4月21日 乗船安全講習会

2023年4月21-25日に海棲哺乳類調査実習を受講し、北海道大学水産学部附属練習船おしよる丸に乗船している学生に対し、おしよる丸航海士より乗船時の安全講習が行われ、乗船中の事故を防ぐための行動について、火事の際の対応についてなどが示された。また、船内案内も実施され、避難経路、救命ボートの場所などを確認したほか、非常時に脱出する際の救命胴衣の装着の仕方などについて、操練も行われた。

4) 2023年7月24日 登山講習会

株式会社モンベルに依頼し、登山講習会を実施した。会場はランチ大津京(滋賀県大津市)で、対面で実施した。参加者は当センターと京都大学理学研究科生物科学専攻の教員と大学院生の計30名だった。内容は、山のリスクマネジメントに関する座学と、ロープワークなどの実技講習であった。

5) 屋久島での安全講習会

屋久島のベテランのガイドの方に依頼して、2023年4月16日に安全講習会を実習形式で行った。屋久島で調査をしている教員と大学院生の研究者7名が参加し、実習形式で安全確保の方法や緊急時の対応などについて学んだ。

6) 屋久島での安全講習会

屋久島のベテランのガイドの方に依頼して、2024年2月8日に安全講習会を座学と、現地での実習形式で行

った。これは当センターの屋久島での野外実習のプログラムを兼ねたものである。実習生4名、教職員2名に加えて、屋久島で調査中の大学院生2名が参加した。危険を予測することや、安全な歩き方などを学んだ。

3)、5)、6)の講習は、当センターとして初めて実施する内容であった。目的の一つは参加者が安全に対する意識、知識、技術などの向上であり、一定の成果があった。もう一つの目的は、今後の安全講習で取り上げる内容を検討することであった。野外調査の内容は多岐に渡り、参加者の知識や技術のレベルも様々である。野外調査の安全を向上させるために効果的な内容を作っていくことも、重要な課題の一つである。今年度は、講習会を通じて、具体的な研修内容を学ぶことができた。

その他

京都大学で新規採用者等に e-Learning による新規採用安全衛生研修が行われており、令和5年度は野生動物研究センター所属の13名が受講した。

16. 自己点検評価

野生動物研究センターで重点的に取り組んでいる項目について、自己点検評価の概要を記す。

新型コロナウイルスの影響

2023年5月8日から、新型コロナウイルス感染症が第5類感染症として位置づけられ、活動制限もレベル0となり、今年度は海外への渡航、海外の学生・研究者に日本に来てもらうことが自由にできるようになった。ただしオンラインを使った教育活動や研究会の開催は、遠隔地にいる学生の指導も可能になること、出張が難しい子育て期の研究者などにとっては助かる面も多いことから、継続されている。

共同利用拠点として機能の充実

野外および動物園・水族館などの飼育下の野生動物の研究を中心に、共同利用研究を進めた。ほとんどの課題は実施できた。研究会や共同利用・共同研究拠点の各種委員会ではハイブリッド形式も併用しながら例年並みに実施できた。

動物園・水族館との連携、研究・教育の推進

研究については前年と同程度には実施できたと言える。動物園と水族館合同でのシンポジウム「動物園・水族館大学」を、1日目はハイブリッド形式、2日目は対面形式で実施した。

海外研究拠点の整備、研究・教育の推進

海外との共同研究は、今年度はかなり行うことができた。新型コロナウイルス感染症が発生以来、ほとんど渡航ができなかったが、現地に赴いての調査研究活動を実施することができた。

教育・研究

2022年度末に起こった調査中の学生の死亡事故を受け、「野外調査に関する安全管理のためのガイドライン」の見直しと大幅な改訂をおこなったほか、株式会社モンベルに協力いただき、登山講習会を実施した。新型コロナウイルスの影響で縮小していた実習について、今年度は実施することができたほか、新たに海棲哺乳類調査実習を実施した。留学生が急激に増えてきたことにともない、英語での教育や事務処理などを進めている。

広報・普及活動

公式 Twitter を2018年度末より開始し、研究対象動物の行動や生態、フィールド調査の様子を紹介や、講演会や研究会、クラウドファンディングに関する通知、発表論文のお知らせなどに本格的に活用している。ニューズレターも2018年度末より開始し、2023年度は10号(040~049号)を発行した。研究内容を分かりやすく伝えるものであり、一般の人が研究に親しみを持ってくれることが期待できる。

幸島のニホンザルの一般公開と稲盛財団が主催したこども科学博2023「生命のキセキ」への協力の2件の普及活動をおこなった。

17. 2023 年度研究業績

執筆文章 (和文)

- Andrew JJ MacIntosh, 島田将喜 (2023) (8 章 霊長類の社会と生態) 衛生行動・回避行動 In: 日本霊長類学会(編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 458-459
- Michael A Huffman (2023) (7 章 霊長類の行動) 自己治療行動: 予防と治療 In: 日本霊長類学会(編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 410-411
- 三谷 曜子, 山村 織生 (2023) ミニシンポジウム記録「知床周辺海域のホットスポット形成: 海洋環境から高次捕食者まで」はじめに 日本水産学会誌 89(5). 463
- 三谷曜子 (2023) 道東のシャチの生態型 In: 水口博也(編) 『シャチ生態ビジュアル百科 第2版』誠文堂新光社, pp. 92-97
- 三谷曜子, 古巻史穂, 櫻木雄太 (2023) ミニシンポジウム記録「知床周辺海域のホットスポット形成: 海洋環境から高次捕食者まで」5. なぜ知床半島周辺海域に海棲哺乳類が多く集まるのか 日本水産学会誌 89(5). 468
- 中村知裕, 植田純生, 野別貴博, 美坂正, 三谷曜子, 西岡純, 三寺史夫 (2023) ミニシンポジウム記録「知床周辺海域のホットスポット形成: 海洋環境から高次捕食者まで」1. 夏季オホーツク海北海道沿岸の水塊: タタール海峡水・海底混合層・北部根室海峡に注目して 日本水産学会誌 89(5). 464
- 伊谷原一 (2023) (1 章 霊長類学の歴史) 日本モンキーセンター In: 日本霊長類学会(編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 30-31
- 伊谷原一 (2023) (9 章 霊長類の保全) 地域紛争と霊長類の保全 In: 日本霊長類学会(編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 492-493
- 佐藤悠 (2023) 連載ワイワイワイルドライフ第7回 保全遺伝学のゲノム革命 モンキー 8(3): 70-71
- 南 俊行, 川口 ゆり, 瀧山 拓哉, 七五三木 環, 横山 実玖歩, 島井 朋恵, 板原 彰宏, 田中 早陽子, 横坂 楓, 乾 真子, 文元 りさ, 宗田 夏帆, 池田 智遥, 池山 睦衛, 高橋 侃凱, 村上 聡, 権藤 岳, 迫田 祐樹, 岩井 宏平, Chen Peini, 川村 康太郎 (2023) 高大連携事業「野生動物学初歩実習」: 高校生と学部生がともに取り組む動物探究活動 霊長類研究
- 南川真吾, 村瀬弘人, 三谷曜子 (2023) 第3章 バイオテレメトリ・バイオリギング In: 村瀬弘人, 北門利英, 服部薫, 田村力, 金治佑 『海棲哺乳類の管理と保全のための調査・解析手法』生物研究社
- 古市剛史 (2023) (9 章 霊長類の保全) 自然保護区の設定と管理 In: 日本霊長類学会(編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 502-503
- 古市剛史 (2023) (9 章 霊長類の保全) 国際自然保護 NGO, NPO In: 日本霊長類学会(編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 520-521
- 山本真也 (2023) (6 章 霊長類の心理・認知) 教育行動の萌芽と進化 In: 日本霊長類学会(編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 356-357
- 岡部晴菜, 三谷曜子, 斎野重夫, 杉田知香, 古巻史穂, 尾澤幸恵, 小林希実 (2024) 北海道羅臼沖におけるザトウクジラ *Megaptera novaeangliae* 同一個体の複数回に亘る来遊の報告 哺乳類科学 64(1): 1-1
- 平田聡 (2023) 自己認識-「わたし」の起源を探る In: 板倉昭二(編) 『比べてわかる心の発達- 比較認知発達科学の視点』有斐閣, pp. 148-165
- 平田聡 (2023) 心的時間旅行の系統発生 *Clinical Neuroscience* 41(8): 1071-1074
- 平田聡 (2023) チンパンジー・サンクチュアリの日米の歴史 *LABIO*21 90: 5-8
- 平田聡 (2023) (6 章 霊長類の心理・認知) 霊長類の心理・認知 研究の概要 In: 日本霊長類学会(編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 304-305
- 平田聡 (2023) (6 章 霊長類の心理・認知) 心的時間旅行と過去・現在・未来の認識 In: 日本霊長類学会(編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 334-335
- 平田聡 (2023) (6 章 霊長類の心理・認知) 自己を認識する心 In: 日本霊長類学会(編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 346-347
- 平田聡 (2023) (6 章 霊長類の心理・認知) あざむき行動にみる社会的認知 In: 日本霊長類学会(編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 358-359
- 平田聡 (2023) (6 章 霊長類の心理・認知) 霊長類における知性の進化の諸相 In: 日本霊長類学会(編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 362-363
- 平田聡, 板原彰宏, 井上漱太, 狩野文浩, 前田玉青, 山本真也 (2023) 先端技術を用いた動物行動研究 *細胞* 55(8): 12-15
- 徳山奈帆子 (2023) (7 章 霊長類の行動) 集団間の交渉 In: 日本霊長類学会(編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 388-389

木下こづえ, 木下さとみ (ユキヒョウ姉妹) (2023) 『幻のユキヒョウ 双子姉妹の標高 4000m 冒険記』扶桑社

村山美穂 (2023) 野生動物の年齢推定に挑戦. 京都大学先生紹介 高校生スキップル

村山美穂 (2023) ゲノム、ホルモン、細胞から生息域外保全を促進する. 特集「希少野生動物の生息域外保全」生物の科学 遺伝 77(5): 336-340

村山美穂 (2024) 動物からみた“個性” 特集 脳と個性 生体の科学 75(1)1-6

村山美穂 (2023) (4 章 霊長類の遺伝)血縁推定 In: 日本霊長類学会 編 『霊長類学の百科辞典』丸善出版, pp. 174-175

村山美穂 (2023) (4 章 霊長類の遺伝) 性格関連遺伝子 In: 日本霊長類学会 (編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 226-227

村山美穂, 岡本優芽 (2023) ネコの毛色と性格には関連があった!? みらいら 10 月号

松田一希 (2023) 連載ワイワイワイルドライフ 第 5 回 3 年ぶりのフィールドへ モンキー 8(1)

松田一希 (2023) (2 章 霊長類の分類・系統・進化)コロブス類 (オナガザル科) In: 日本霊長類学会 (編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 60-61

松田一希 (2023) (8 章 霊長類の社会と生態)消化器官と食性 In: 日本霊長類学会 (編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 438-439

松田一希 (2023) (8 章 霊長類の社会と生態)捕食 In: 日本霊長類学会 (編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 448-449

松田一希 (2023) (8 章 霊長類の社会と生態)重層社会 In: 日本霊長類学会 (編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 476-477

松田一希, 中川尚史 (2023) (8 章 霊長類の社会と生態)霊長類の社会と生態の概要と研究史 In: 日本霊長類学会 (編) 『霊長類学の百科事典』丸善出版, pp. 428-429

櫻木雄太, 川上達也, 笠井亮秀, 山村織生, 三谷曜子 (2023) ミニシンポジウム記録「知床周辺海域のホットスポット形成: 海洋環境から高次捕食者まで」 3. 夏の知床半島周辺海域における魚類相 日本水産学会誌 89(5): 466

藤原摩耶子 (2023) 希少野生動物の人工繁殖を目的とした精子保存と受精技術. 特集「希少野生動物の生息域外保全」生物の科学 遺伝 77(5): 369-373

鈴木崇文 (2024) ふるさと宮崎 自然図鑑 ~26~ 幸島のニホンザル① 宮崎日日新聞

鈴木崇文 (2024) ふるさと宮崎 自然図鑑 ~27~ 幸島のニホンザル② 宮崎日日新聞

執筆文章 (英文)

Alejandro, J., Yamanashi, Y., Nemoto, K., Mouri, K., Huang, C., Bercovitch, F. B., Huffman, M. A. (2023) Reducing stress and stereotypic behaviors in captive female pygmy slow lorises (*Nycticebus pygmaeus*) *American Journal of Primatology* 85(7): e23495

Allanic, M. (2024) A Closer Look at Grooming Patterns in Bonobos In: Takeshi Furuichi, Gen'ichi Idani, Daiji Kimura, Hiroshi Ihobe, Chie Hashimoto Bonobos and people at Wamba: 50 years of research Springer, pp. 149-165

Arai, K., Qi, H., Inoue-Murayama, M. (2023) Age estimation of captive Asian elephants (*Elephas maximus*) based on DNA methylation: An exploratory analysis using methylation-sensitive high-resolution melting (MS-HRM) *PLoS ONE* 18(12): e0294994

Bernard, H., Mohammad-Shom, S. N. H. B., Abram, N. K., Matsuda, I. (2024) Status of proboscis monkeys in Kota Belud, Sabah, Malaysia: insights from population surveys and habitat assessment *Primate Conservation* 37: 174-184

Borghezan, E. A., Pires, T. H. S., Zuanon, J., Kohshima, S. (2023) Effect of light bias on male mating signal and female mate choice in a sexually dimorphic amazon fish *Behavioural Processes* 213: 104958

Borghezan, E. A., Pires, T. H. S., Zuanon, J., Sugiura, H., Kohshima, S., Kishida, T. (2024) Unstable environmental condition constrains the fine-tune between opsin sensitivity and underwater light in an amazon forest streams fish *Journal of Evolutionary Biology*

Broche, N., Mouri, K., Suzumura, T., Huffman, M. A. (2023) Measuring short-term changes in stress-associated salivary analytes in free-ranging Japanese macaques (*Macaca fuscata*) *Primates* 64: 439-449

Broche Jr, N., Gris, V., Suda-Hashimoto, N., Mouri, K., Miyabe-Nishiwaki, T., Suzuki, J., Huffman, M. A. (2023) Housing relocation does not have to induce a significant stress response in captive Japanese macaques (*Macaca fuscata*) *Journal of Medical Primatology*

Broche Jr, N., Mouri, K., Suzumura, T., Huffman, M. A. (2023) Measuring short-term changes in stress-associated salivary

- analytes in free-ranging Japanese macaques (*Macaca fuscata*) *Primates* 64:439–449
- Bösch, J., McGrosky, A., Tuuga, A., Tangah, J., Clauss, M., Matsuda, I. (2023) They chew by night? Nighttime behaviour in a ‘ruminating’ primate, the proboscis monkey (*Nasalis larvatus*) *Journal of Zoology*
- DeTroy, S. E., Hirata, S., Nakamura, M., Haun, D. B. M., Leeuwen, E. J. (2023) Evolution of Humanity: English Translation of the Original Essay by Kinji Imanishi. Including Commentaries by Contemporary Scholars *International Journal of Primatology*
- Fasbender, D. (2024) Column: From Nests and Videos to Wamba Bonobos In: Takeshi Furuichi, Gen'ichi Idani, Daiji Kimura, Hiroshi Ihobe, Chie Hashimoto Bonobos and people at Wamba: 50 years of research Springer, pp. 333–335
- Furuichi, T. (2024) Prolonged sexual receptivity in females and its impact on the evolution of bonobos In: Takeshi Furuichi, Gen'ichi Idani, Daiji Kimura, Hiroshi Ihobe, Chie Hashimoto Bonobos and people at Wamba: 50 years of research Springer, pp. 545-564
- Furuichi, T., Idani, G., Kimura, D., Ihobe, H., Hashimoto, C. (2024) Bonobos and people at Wamba: 50 years of research Springer
- Hamabata, T., Kameda, K., Hayashi, R., Okuyama, J., Kawazu, I., Nishizawa, H. (2024) Latest and comprehensive mitochondrial DNA haplotype data on green and hawksbill turtles collected in their habitats in Japan *Frontiers in Marine Science* 11, 1328101
- Hanya, G., Ohta, T., Kurihara, Y., He, T., Sawada, A., Shiroishi, I., Kinoshita, K. (2023) Mineral acquisition of Japanese macaques: Contents in the foods, digestibility, and sodium-provisioning experiment *American Journal of Primatology* 85: e23502
- Hanya, G., Yoshihiro, S., Yamamoto, H., Ueda, Y., Kakuta, F., Hiraki, M., Otani, Y., Kurihara, Y., Kondo, Y., Hayaishi, S., Honda, T., Takakuwa, T., Koide, T., Sugaya, S., Yokota, T., Jin, S., Shiroishi, I., Fujino, M., Tachikawa, Y. (2023) Two-decade changes in habitat and abundance of Japanese macaques in primary and logged forests in Yakushima: Interim report *Forest Ecology and Management* 545. 121306
- Hashimoto, C. (2024) Sexual behaviors and hormonal background of female bonobos In: Takeshi Furuichi, Gen'ichi Idani, Daiji Kimura, Hiroshi Ihobe, Chie Hashimoto Bonobos and people at Wamba: 50 years of research Springer, pp. 61-76
- Hirata, S. (2024) Treatment of hepatitis in ex-biomedical chimpanzees at a Japanese sanctuary thanks to support from the general public *Primates*
- Idani, G. (2024) Social behaviors of nulliparous adolescent female bonobos In: Takeshi Furuichi, Gen'ichi Idani, Daiji Kimura, Hiroshi Ihobe, Chie Hashimoto Bonobos and people at Wamba: 50 years of research Springer, pp. 211-228
- Itahara, A., Kano, F. (2024) Gaze tracking of large-billed crows (*Corvus macrorhynchos*) in a motion capture system *Journal of Experimental Biology* 227 (6): jeb246514
- Iwata, I., Sakamoto, T., Matsumoto, T., Hirata, S. (2023) Non-contact Measurement of Heartbeat of Humans and Chimpanzees Using Millimeter-Wave Radar with Topology Method *IEEE Sensors Letters* 7(11): 1-4
- Kaigaishi, Y., Yamamoto, S. (2023) A report of stillbirth and subsequent maternal cannibalism observed in a free-ranging group of Japanese macaques at Awajishima, Japan *Primates* 64, 573–578
- Kido, N., Tanaka, S., Wada, Y., Oura, A., Ochiai, E., Morita, N., Kawaguchi, Y., Itabashi, M., Munakata, T. (2024) Body Shape Analysis in Reticulated Giraffe, Okapi, and Black Rhinoceros Using Three-Dimensional Laser Measurements *Journal of Zoological and Botanical Gardens* 5(1), 80-89
- Kazuya Toda, Nahoko Tokuyama, Tetsuya Sakamaki (2024) In: Takeshi Furuichi, Gen'ichi Idani, Daiji Kimura, Hiroshi Ihobe, Chie Hashimoto 『Bonobos and people at Wamba: 50 years of research』Springer, pp. 181-209
- Kikuchi, H., Matsumiya, H., Oshida, T., Izumiyama, S. (2023) A case of mountain hawk-eagle hunting small mammals in a tree cavity *Journal of Yamashina Institute for Ornithology* 55: 152-155
- Kurihara, Y. (2023) Scavenging on a Carcass of Sika Deer by Introduced Raccoon Dogs (*Nyctereutes procyonoides*) in Spring: A Case Report in the World Heritage Site of Yakushima Island, Japan *Mammal Study* 48(4):289-295
- Lee, W., Hayakawa, T., Kiyono, M., Yamabata, N., Enari, H., Enari, H. S., Fujita, S., Kawazoe, T., Asai, T., Oi, T., Kondo, T., Uno, T., Seki, K., Shimada, M., Tsuji, Y., Langgeng, A., MacIntosh, A., Suzuki, K., Yamada, K., Onishi, K., Ueno, M., Kubo, K., Hanya, G. (2023) Diet-related factors strongly shaped the gut microbiota of Japanese macaques *American Journal of Primatology* 85(12): e23555
- Lewis, L. S., Wessling, E. G., Kano, F., Stevens, J. M. G., Call, J., Krupenye, C. (2023) Bonobos and chimpanzees

- remember familiar conspecifics for decades Proceedings of the National Academy of Sciences 120 (52) e2304903120
- Maeda, T., Yamamoto, S. (2023) Drone Observation for the Quantitative Study of Complex Multilevel Societies Animals 13(12): 1911
- Matsuda, I., Murai, T., Grueter, C. C., Tuuga, A., Goossens, B., Bernard, H., Yahya, N. K., Orozco-terWengel, P., Salgado-Lynn, M. (2024) The multilevel society of proboscis monkeys with a possible patrilineal basis Behavioral Ecology and Sociobiology 78
- Matsumoto, Y., Konno, A., Ishihara, G., Inoue-Murayama, M. (2023) Genetic dissection of behavioral traits related to successful training of drug detection dogs. Scientific Reports 13: 7326
- Mendonça, R. S., Maeda, T., Pinto, P., Inoue, S., Ringhofer, M., Yamamoto, S., Hirata, S. (2023) Examining the effect of sociodemographic factors on feral horses' social networks Journal of Zoology 321(2): 113-127
- Miyaniishi, A., Sakai, M., Kogi, K. (2023) Observations and Detailed Descriptions of Sociosexual Behavior in Wild Indo-Pacific Bottlenose Dolphins (*Tursiops aduncus*) Mammal Study 48(3)
- Mizuno, K., Ranjeewa, A. D. G., Kutsukake, N., Padmalal, K. U. K. G. (2023) Collective movements during visits to water bodies in wild Asian elephants Journal of Ethology 41, 223–230
- Morimura, N., Itahara, A., Brooks, J., Mori, Y., Piao, Y., Hashimoto, H., Mizumoto, I. (2023) A Drone Study of Sociality in the Finless Porpoise *Neophocaena asiaorientalis* in the Ariake Sound, Japan Drones 7(7), 422
- Nautiyal, H., Tanaka, H., Huffman, M. A. (2023) Anti-predator strategies of adult male Central Himalayan Langurs (*Semnopithecus schistaceus*) in response to domestic dogs in a human-dominated landscape Primates 64: 361-379
- Niiyama, K., Iida, Y., Oguro, M., Saito, S. (2023) Changes in forest structure over 23 years under disturbances in a warm temperate rain forest on Yakushima Island, Japan Ecological Research 1-14
- Ogawa, M., Mitani, Y. (2024) Distribution and composition of floating marine debris in Shiretoko peninsula, Japan, using opportunistic sighting survey Marine Pollution Bulletin 116266
- Ogawa, M., Momoi, A., Kushihiki, T., Mitani, Y. (2023) Investigating harbor seal's (*Phoca vitulina*) visual cognition: Which features they predominately use to discriminate 2D objects, brightness and shape? Japan Cetology 33, 15-23
- Okado, J., Watanuki, Y. (2023) Small interannual variability in the body mass of a seabird with high flight costs Marine Biology 170: 122
- Otsuki, M., Ogawa, M., Watanuki, Y., Mitani, Y., Ishizuka, M., Ikenaka, Y., Thiebot, J. (2024) Brood patch size as a field indicator for feather mercury concentration, but not plastic ingestion, in a harvested seabird of the high Arctic: The little auk *Alle alle* Polar Science 101053
- Oi, H., Lim, Q. L., Kinoshita, K., Nakajima, N., Inoue-Murayama, M. (2024) A cost-effective blood DNA methylation-based age estimation method in domestic cats, *Tsushima leopard cats* (*Prionailurus bengalensis euptilurus*), and *Panthera* species, using targeted bisulfite sequencing and machine learning models. Molecular Ecology Resources e13928
- Romano, V., Puga-Gonzalez, I., MacIntosh, A. J. J., Sueur, C. (2024) The role of social attraction and social avoidance in shaping modular networks Royal Society Open Science 11(2): 231619
- Saito, M., Matsunaga, M., Fukuizumi, H., Nakamichi, M., Kinoshita, K. (2023) Factors affecting captive female giraffe stress response: Male presence, small enclosure, and low temperature Zoo Biology 42 (5) :632-643
- Sakai, T., Hata, J., Shintaku, Y., Ohta, H., Sogabe, K., Mori, S., Miyabe-Nishiwaki, T., Okano, H. J., Hamada, Y., Hirabayashi, T., Minamimoto, T., Sadato, N., Okano, H., Oishi, K. (2023) The Japan Monkey Centre Primates Brain Imaging Repository of high-resolution postmortem magnetic resonance imaging: The second phase of the archive of digital records Neuroimage 273:120096
- Sakamaki, T., Tokuyama, N. (2024) Potential Benefits of Inter-group Associations and Chronological Changes of Inter-group Relationships in Bonobos In: Takeshi Furuichi, Gen'ichi Idani, Daiji Kimura, Hiroshi Ihobe, Chie Hashimoto Bonobos and people at Wamba: 50 years of research Springer, pp. 311-332
- Santa, A., Kanda, K., Kako, T., Miyajima, M., Adachi, I. (2024) Matching-to-Sample Task Training of a Killer Whale (*Orcinus orca*) Animals 14(6), 821
- Sato, Y., Humble, E., Ogden, R. (2023) Genomic data reveal strong differentiation and reduced genetic diversity in island golden eagle populations Biological Journal of the Linnean Society 172

- Sato, Y., Sakai, Y., Hirata, S. (2023) State-transition-free reinforcement learning in chimpanzees (*Pan troglodytes*) *Learning & Behavior*
- Sekine, A., Yasunaga, G., Kumamoto, S., Fujibayashi, S., Munirah, I., Bai, L., Tani, T., Sugano, E., Tomita, H., Ozaki, T., Kiyono, T., Inoue-Murayama, M., Fukuda, T. (2023) Characterization of Common Minke Whale (*Balaenoptera Acutorostrata*) Cell Lines Immortalized with the Expression of Cell Cycle Regulators *Advanced Biology* 12: e2300227
- Shibata, S., Furuichi, T. (2024) Intermale Relationships in Wild Bonobos at Wamba In: Takeshi Furuichi, Gen'ichi Idani, Daiji Kimura, Hiroshi Ihobe, Chie Hashimoto Bonobos and people at Wamba: 50 years of research Springer, pp. 285-310
- Sugimoto, T., Hirata, S. (2023) Horses' Social Evaluation of Human Third-Party Interactions *Animal Behavior and Cognition* 10(2):96-104
- Suzuki-Hashido, N., Tsuchida, S., Azumano, A., Goossens, B., Saldivar, D. A. R., Stark, D. J., Tuuga, A., Ushida, K., Matsuda, I. (2023) Isolation of Bacteria from Freeze-Dried Samples and the Functional Characterization of Species-Specific Lactic Acid Bacteria with a Comparison of Wild and Captive Proboscis Monkeys *Microorganisms* 11(6), 1458
- Takagi, S., Koyasu, H., Hattori, M., Nagasawa, T., Maejima, M., Nagasawa, M., Kikusui, T., Saito, A. (2023) Effects of the COVID-19 Pandemic on the Behavioural Tendencies of Cats and Dogs in Japan *Animals* 13, 2217
- Take, M., Yumoto, T., Barnett, A. A., Onizawa, K., Spironello, W. R. (2023) Eat the fruit earlier: Sakis (*Pithecia chryscephala*) show enhanced temporal fruit resource access compared with squirrel monkeys (*Saimiri sciureus*) in an urban forest fragment in Brazil *American Journal of Primatology* e23575
- Takemoto, H. (2024) The Influence of the Congo River on the Evolutionary Trajectory of Bonobos. In: Takeshi Furuichi, Gen'ichi Idani, Daiji Kimura, Hiroshi Ihobe, Chie Hashimoto Bonobos and People at Wamba: 50 Years of Research Springer, pp. 477-496
- Tanaka, H., Nishina, K., Shou, Q., Takahashi, H., Sakagami, M., Matsuda, T., Inoue-Murayama, M., Takagishi, H. (2023) Association between arginine vasopressin receptor 1A (AVPR1A) polymorphism and inequity aversion. *Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences* 290: 20230378
- Tokuyama, N. (2024) Aggressive behaviors and social dominance in bonobos In: Takeshi Furuichi, Gen'ichi Idani, Daiji Kimura, Hiroshi Ihobe, Chie Hashimoto Bonobos and people at Wamba: 50 years of research Springer, pp. 247-265
- Watanabe, T., Yamazaki, Y. (2024) Complex geohistory of continental islands advanced allopatric evolution even for the highly dispersive generalist red fox (*Vulpes vulpes*): multiple phylogenetic groups in the Japanese Archipelago *Zoological Journal of the Linnean Society* zlae007
- Yagi, G., Qi, H., Arai, K., Kita, Y. F., Kogi, K., Morisaka, T., Yoshioka, M., Inoue-Murayama, M. (2023) Non-invasive age estimation based on faecal DNA using methylation-sensitive high-resolution melting for Indo-Pacific bottlenose dolphins *Molecular Ecology Resources*
- Yamamoto, C., Kashiwagi, N. (2023) Affiliative Behavior After Aggressions in Common Bottlenose Dolphins (*Tursiops truncatus*) *Aquatic Mammals* 49(3): 288-293.
- Yamamoto, S. (2024) Column: Food Sharing in Rich Environments In: Takeshi Furuichi, Gen'ichi Idani, Daiji Kimura, Hiroshi Ihobe, Chie Hashimoto Bonobos and people at Wamba: 50 years of research Springer, pp. 233-235
- Zhao, Y. Y., Wong, A., Alsisto, S., Matsuda, I., Bernard, H. (2023) Long-Tailed Macaque Reliance on Anthropogenic Food with Potential Conflicts toward Humans in the Campus of Universiti Malaysia Sabah *Mammal Study* 48(4)

受賞

八鍬聖. 第39回日本霊長類学会大会・優秀ポスター発表賞. 2023年7月.

岡本優芽. ヒトと動物の関係学会第30回学術大会・奨励賞. 2024年3月.

鈴木百夏. 京都大学理学共創イノベーションコンソーシアム・第2回研究交流会 銀楓賞. 2024年2月.

学会等での発表・講演(日本語)

Alexander Weiss, Catherine Hobaiter, Klaus Zuberbühler. Personality in two communities of wild chimpanzees. 第39回日本霊長類学会大会. 2023年7月.

Boyun Lee, Takeshi Furuichi. Patterns and effects of reactions to handling by infant Japanese macaques in Yakushima. 第39回日本霊長類学会大会. 2023年7月.

Takuto Sugimoto, Satoshi Hirata. Horses' preferential looking to humans based on problem-solving ability. 日本動物心理学会 第 83 回大会 (poster). 2023 年 10 月.

Yeongju Lee. Maternal Social Relationships and the Sociality of Offspring in the Free-roaming Horse Society /The 42nd Annual Meeting of the Japan Ethological Society, Kyoto, Japan (poster). 2023 年 11 月.

佐藤 悠, 村山美穂, 大沼学. 島国の鳥類ゲノム: イヌワシとヤンバルクイナの多様性. 第 71 回日本生態学会, 横浜. 2024 年 3 月.

八木 原風, 齋 惠元, 新井 花奈, 北 夕紀, 小木 万布, 森阪 匡通, 吉岡 基, 村山 美穂. ミナミハンドウイルカの糞 DNA を利用した非侵襲的年齢推定法. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会. 2024 年 2 月.

八 鍬聖, 横山ちひろ, 林拓也, 武田千穂, 川崎章弘, Alexander Weiss, 井上一村山美穂. コモンマーモセットにおけるミエリン形成に関わる遺伝子の多型とパーソナリティの関連. 第 39 回日本霊長類学会大会. 2023 年 7 月.

内藤アンネグレート素, 佐藤 悠, 三浦匡哉, 村山美穂. ニホンイヌワシにおける主要組織適合性複合体 (MHC) 遺伝子の多様性と繁殖への影響. シンポジウム「種の保存法に基づく保護増殖事業対象種の保全ゲノミクス」第 71 回日本生態学会, 横浜. 2024 年 3 月.

北山遼, 橋本千絵. カリンズ森林のブルーモンキー集団におけるオトナオス 2 頭による群れの乗っ取りとその後の共存. 第 39 回日本霊長類学会大会. 2023 年 7 月.

山下悠里, Titus Dery, 木下剛志, Christopher Adenyo, Boniface B. Kayang, 小出 剛, 松本由樹, 村山美穂. グラスカッターの腸管形態の特徴と deColrozinsg solution の有用性. 動物の行動と管理学会 2023 年度大会. 2023 年 9 月.

山根美子, 大塚亮真, 玉那覇彰子, 向真一郎, 中谷裕美子, 長嶺隆, 村山美穂, 木下こづえ. 性ステロイドホルモン濃度と行動変化からヤンバルクイナの繁殖特性を探る. 日本動物行動学会第 42 回大会, 2023 年 11 月.

岡本優芽, 服部円, 村山美穂. ネコ (Felis catus) の行動特性とアンドロゲン受容体遺伝子型の関連. 日本動物行動学会第 42 回大会. 2023 年 11 月.

岡本優芽, 服部円, 村山美穂. ネコ (Felis catus) のゴロゴロ音は生まれつき? -アンドロゲン受 容体遺伝子の解析から-. ヒトと動物の関係学会第 30 回学術大会. 2024 年 3 月.

後藤優佳, 多賀城, 村上聡, 岩井宏平, 平田聡, 板原彰宏, 松原始. 日本とオーストラリアのカラス科・フェガラス科の食性差と歩行様式の関係. 日本動物行動学会第 42 回大会. 2023 年 11 月.

徳山奈帆子, 坂巻哲也. 野生ボノボにおける、メスからの激しい攻撃による α オスの順位転落. 第 39 回日本霊長類学会大会. 2023 年 7 月.

戸部有紗, 佐藤 悠, 近藤充希, 大沼学, 村山美穂. カンムリワシはなぜ毒を持つ外来種を捕食できるのかー毒耐性遺伝子の進化的背景, 第 71 回日本生態学会. 2024 年 3 月.

戸部有紗, 佐藤行人, 伊澤雅子. DNA バーコーディングで明らかになった、絶滅危惧種カンムリワシの季節的な食性の差. 日本鳥学会 2023 年度大会. (poster). 2023 年 9 月.

村山美穂. 遺伝情報を活用して野生動物を絶滅から守る. 日本学術会議近畿地区シンポジウム: 女性の活躍から未来を考える. 2023 年 9 月.

村山美穂. ゲノム、ホルモン、細胞から生息域外保全を促進する、公開シンポジウム「野生動物ラボの挑戦」(ハイブリッド)、キャンパスプラザ京都. 2023 年 12 月.

村山美穂. 「動物の社会性の遺伝的背景を探る」社会神経科学研究会 & 4 拠点連携共催シンポジウム「社会性研究の学際的研究連合の形成に向けて」、玉川大学 (招待講演) . 2024 年 3 月.

村山美穂, 小出剛. 遺伝子解析から挑む、在来家畜の生産効率化～開発途上国における安全かつ栄養ある食糧の安定供給を目指して～. 健都イノベーションパーク交流セミナー 京大初イノベーションを探る@健都. 2023 年 10 月.

村山美穂, 藤原摩耶子. ゲノム情報と卵子バンクを活用した野生動物の生息域外保全. 第 46 回日本分子生物学会年会. 2023 年 12 月.

村松 大輔, Edson R. Costa, 依田 憲, 矢部 恒晶, Marcelo Gordo. ナマケモノは、なぜ、どのように怠けているのか: 低コストの体温調節戦略. 日本動物行動学会 第 42 回大会. 2023 年 11 月.

松田一希, Janique Bösch, Amanda McGrosky, Augustine Tuuga, Joseph Tangah, Marcus Clauss. テングザルの夜間行動. 第 39 回日本霊長類学会大会. 2023 年 7 月.

横山ちひろ, 武田千穂, 川崎章弘, 松本勇輝, 林拓也, 橋彌和秀, 孟憲巍, 小林洋美, 八 鍬聖, 井上一村山美穂. マカク

ザルのヒト視線方向に反応するコミュニケーション行動と遺伝子多型. 第39回日本霊長類学会大会. 2023年7月.

橋戸南美, 土田さやか, 伊藤響生, 本田剛章, 新宅勇太, 半谷吾郎, 牛田一成. 屋久島山頂部ニホンザルのササ食を支える腸内細菌の機能特性. 第39回日本霊長類学会大会. 2023年7月.

片山雅史, 福田智一, 金子武人, 中川優貴, 田島淳史, 内藤充, 大槇仁美, 遠藤大二, 浅野 玄, 長嶺隆, 中谷裕美子, 齊藤慶輔, 渡邊有希子, 谷哲弥, 村山美穂, 中嶋信美, 大沼学. 絶滅危惧鳥類4種からのiPS細胞の樹立. 第29回日本野生動物医学会大会. 2023年9月.

田島知之, 義村弘仁, 黒鳥英俊, 木下こづえ. 野生の仮面一オランウータンのオスにおけるフランジ発達中のホルモン動態. 第39回日本霊長類学会大会. 2023年7月.

竹元博幸. ボノボの進化におけるコンゴ川の影響. 第39回日本霊長類学会大会. 2023年7月.

藤原摩耶子, 西本千夏, 村山美穂. ツシマヤマネコをはじめとする野生ネコ科動物の卵子保存. 野生動物保全繁殖研究会. 2023年8月.

西村剛, 徳田功, 吉谷友紀, 新宅勇太, Christian T. Herbst. テナガザルの摘出喉頭試料を用いた声帯振動実験. 第39回日本霊長類学会大会. 2023年7月.

豊田有, アンドレ・ゴンカルヴェス, 丸橋珠樹, Suchinda Malaiwijitnond, 松田一希. タイ王国に生息するベニガオザルで観察された死体に対する反応の事例報告. 第39回日本霊長類学会大会. 2023年7月.

金原蓮太朗, アドリアン・A・ダヴィン, 渡部裕介, 小金淵佳江, 太田博樹. 霊長類におけるClass IADH 遺伝子の進化. 第39回日本霊長類学会大会. 2023年7月.

金子武人, 藤原摩耶子. 「希少野生動物の人工繁殖に活用する生殖細胞保存技術の開発」公開シンポジウム「野生動物ラボの挑戦-ヤンバルクイナとツシマヤマネコ保全の最前線-」(ハイブリッド). 2023年12月.

鈴木久代, マイケル・ハフマン, 中道正之, 高畑由起夫. 嵐山ニホンザルメスの分裂前後を含む優劣交渉の変遷と“川村の法則”との整合性. 第39回日本霊長類学会大会. 2023年7月.

鈴木彩月, 内藤アンネグレート素, 大沼学, 長嶺隆, 中谷裕美子, 村山美穂. DNAメチル化を指標としたヤンバルクイナの年齢推定. 第71回日本生態学会, 横浜. 2024年3月.

鈴木百夏. 北海道周辺海域に生息するシャチのミトコンドリアDNAハプロタイプ解析. 京都大学理学共創イノベーションコンソーシアム・第2回研究交流会(ポスター). 2024年2月.

鈴木百夏, 早川卓志, 北夕紀, 吉岡基, 大泉宏, 中原史生, 斎野重夫, 山田格, 河合真美, 三谷曜子. 北海道周辺海域に生息するシャチのミトコンドリアDNAハプロタイプ解析による遺伝的多様性の評価. 2023年度勇魚会シンポジウム(口頭). 2023年12月.

学会等での発表・講演(英語)

Furumaki, S., Sugai, L. S. M., Klinck, H., Mitani, Y. Transfer learning in Conservation Bioacoustics: from birds to ribbon seals. The XXV III International Bioacoustics Congress (IBAC2023), 北海道大学 札幌市. 2023年10月.

Langgeng A, MacIntosh AJJ, Lee W, Hanya G, Okamoto M. Heat it up: Linking hot spring bathing behavior and holobionts in Japanese macaques. The 29th International Primatological Society Congress, Kuching, Malaysia.. 2023年8月.

Arai, K., Qi, H., Inoue-Murayama, M. Epigenetic Age Estimation of Asian Elephants (*Elephas maximus*). PWS Symposium 2023 (poster). November, 2023.

Azhari, F. A., Moritsuka, E., Kusumi, J., Araya, K., Sato, Y., Inoue-Murayama, M. Genetic Diversity and Population Structure of *Cybister rugosus* and My Research Plan in WRC. PWS Symposium 2023. November, 2023.

Bai, L., Kikuchi, N., Eitsuka, T., Matsusaka, H., Nakagawa, K., Katayama, M., Ito, K., Inoue-Murayama, M., Kiyono, T., Fukuda, T. Immortalization of primary cells derived from the endangered Ryukyu long-furred rat. JAACT2023 (日本動物細胞工学会). November, 2023.

Brooks, J., Maeda, T., Ringhofer, M., Yamamoto, S. Oxytocin modulates group organization in free-moving horses. PWS Symposium 2023. November, 2023.

Costa, R., Romano, V., Pereira, A., Hart, J. D., Macintosh, A., Huffman, M., Sayuri, R., Kalema-Zikusoka, G., Bercovitch, F., Tomonaga, M., Hayashi, M. The impact of tourist visits on mountain gorilla behavior in Uganda: proximity to tourists and risk of extinction. 第39回日本霊長類学会大会(The 39th Congress Primate Society of Japan). July, 2023.

- Costa, R., Romano, V., Pereira, A., Hart, J. D. A., MacIntosh, A., Huffman, M., Sayuri, R., Kalema-Zikusoka, G., Bercovitch, F., Tomonaga, M., Hayashi, M. People and Gorillas, from Uganda to Japan: the impacts of interactions between tourists and gorillas on their behavior and species conservation. PWS Symposium 2023. November, 2023.
- Eslamibidgoli, N., MacIntosh, A. Investigating the Latrine Behavior of Invasive Raccoon Dogs (*Nyctereutes procyonoides*) on Yakushima Island. The 18th International Symposium on Primatology and Wildlife Science, Kyoto, Japan. November, 2023.
- Fujihara, M. Wildlife biobanking for in-situ and ex-situ conservation in Japan. The 50th Annual Conference of International Embryo Technology Society (IETS), CANDES Preconference Symposium. 招待講演. January, 2024.
- Gao, J., Adachi, I. Body part categorization in chimpanzees. The 39th Annual Congress of the Primate Society of Japan. July, 2023.
- Gao, J., Adachi, I. Body part categorization in chimpanzees: a complete analysis. The 83rd Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology. October, 2023.
- Gao, J., Adachi, I. Body part categorization in chimpanzees. The Symposium on Primatology and Wildlife Science 2023. November, 2023.
- Gao, J., Han, Y., Song, X., Yamanashi, Y., Tanaka, M. Setting up touchscreen testing systems for zoo animals: progress with domestic goats in Kyoto City Zoo. 第5回動物園水族館大学シンポジウム. March, 2024.
- Itahara, A., Kano, F. A motion-capture system reveals the selective use of visual field in large-billed crows (*Corvus macrorhynchos*). (Poster presentation), Behaviour 2023. Bielefeld, Germany. August, 2023.
- Keuk, K., Majewski, K., MacIntosh, A. J. J. Raccoon dog invasion in Yakushima: is raccoon dog distribution associated with risk of environmentally transmitted parasites? PWS Symposium 2023. November, 2023.
- Kobayashi, C., Palacino, G., Brooks, J., Yamamoto, S. Revealing the effect of oxytocin on social relationships in semi-free-ranging horses under food competition with behavioral tracking using deep learning. PWS Symposium 2023. November, 2023.
- LIM, Q. L., YONG, C. S. Y., NG, W. L., ISMAIL, A., ROVIERYAN, J. J., ROSLI, N., MURAYAMA, M., ANNAVI, G. POPULATION GENETIC STRUCTURE, PHYLOGENETICS, AND SEX RATIO OF THE MALAYAN TAPIRS IN PENINSULAR MALAYSIA. 'MALAYAN TAPIR NATIONAL SEMINAR. November, 2023.
- Lin, C., Iki, S., Kadam, S., Adachi, I., Yamamoto, S. Measuring Emotional States through Judgment Bias via a Go/no-go Touch Screen Task in Chimpanzees. PWS Symposium 2023. November, 2023.
- Mitani, Y., Konno, N., Murayama, K., Johnstone, J., Suzuki, I. Future for sea otters in Hokkaido. PWS Symposium 2023. November, 2023.
- Naito-Liederbach, A. M., Inoue-Murayama, M. CURRENT SITUATION OF GENETIC AND GENOMIC RESEARCH OF BIRDS OF PREY IN ASIA, キルギスアカデミー. September, 2023.
- Nakano, M., Ito, H., Suzumura, T., Tamaki, K., Inoue-Murayama, M. Age estimation of primates by DNA methylation analysis. IAFS2023. November, 2023.
- Nautiyal, H., Tanaka, H., Huffman, M. A. Anti-predator strategies of adult male Central Himalayan Langurs (*Semnopithecus schistaceus*) in response to domestic dogs in a human-dominated landscape. PWS Symposium 2023. November, 2023.
- Niimura, Y., Biswa, B., Kishida, T., Toyoda, A., Ito, M., Touhara, K., Inoue-Murayama, M., Jenkins, S., Adenyo, C., Kayang, B., Koide, T. Synchronized expansion and contraction of olfactory, vomeronasal, and taste receptor gene families in hystricomorph rodents. ECRO2023. September, 2023.
- Nishimoto, C., Fujihara, M., Murayama, M. Improvement of oocyte in vitro maturation techniques using domestic cats' ovaries to establish assisted reproductive technology in wild cats. PWS Symposium 2023 (poster). November, 2023.
- Okamoto, Y., Hattori, M., Arahori, M., Inoue-Murayama, M. Factors that relate to cats' behavior: assessing the relationship between polymorphism in the oxytocin receptor gene and behavior questionnaire results. 日本動物心理学会第83回大会 (poster). October, 2023.
- Onishi, E., Inoue, S., Brooks, J., Yamamoto, S. Urination Behavior in Captive Chimpanzees: Synchrony, Contagion, and Social Patterns. PWS Symposium 2023. November, 2023.

Piao, Y., Brooks, J., Yamamoto, S. Investigating the importance of observed causal effects during the social learning of tool set use in chimpanzees: preliminary report. PWS Symposium 2023. November, 2023.

Piao, Y., Brooks, J., Yamamoto, S. Investigating the visual attention of chimpanzees when viewing model's same/different tool-use techniques. The 83rd Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology (poster). October, 2023.

Saidi, M. M., Sato, Y., Ramadan, S., Inoue-Murayama, M. Genetic diversity of critically endangered captive black rhinoceros in Japan: Implication for conservation. PWS Symposium 2023 (poster). November, 2023.

Seki, M., Murayama, M., Hirata, S., Kinoshita, K. Tsushima Leopard cats may scavenge on carcasses in Tsushima Island, Japan. PWS Symposium 2023 (poster). November, 2023.

Sugimoto, T., Hirata, S. Horses with sustained attention evaluate humans based on their problem-solving abilities. PWS Symposium 2023 (poster). November, 2023.

Suzuki, M., Hayakawa, T., Kita, Y. F., Yoshioka, M., Ohizumi, H., Nakahara, F., Saino, S., Yamada, T., Kawai, M., Mitani, Y. Mitochondrial DNA haplotype analysis of killer whales (*Orcinus orca*) around Hokkaido suggests a refugium for killer whales off Japan during the Last Glacial Maximum. PWS Symposium 2023 (poster). November, 2023.

Tajima, T., Kuze, N., Kanamori, T., Tsutaya, T., Mendonça, R., Yamazaki, S., Henry, B., S. K. V., Arora, N., Krützen, M., Inoue, E., Inoue-Murayama, M. Male Reproductive Success in wild Bornean Orangutans in Primary Dipterocarp Forest: Implication of the Influence of Mast-fruiting on male reproductive skew. IPS-MPS Joint Meeting 2023. August, 2023.

Takeuchi, T., Muramatsu, D. Uncertain mate recognition shapes social behaviours and conspicuous traits of butterflies. International Conferences on the Biology of Butterflies 2023. Czech University of Life Sciences Prague, Prague, Czech Republic. . July, 2023.

Tobe, A., Sato, Y., Kondo, M., Onuma, M., Inoue-Murayama, M. Analysis of Genes Related to Toxic Resistance in Crested Serpent Eagle Preying on Poisonous Invasive Alien Species. PWS Symposium 2023 (poster). November, 2023.

Tokuyama, N. The Experience Of Encountering Bonobos And Its Impact On Conservation Awareness Among Secondary

Students Living Inside And Outside A Reserved Area. PWS Symposium 2023. November, 2023.

Yagi, G., Qi, H., Arai, K., Kita, Y., Morisaka, T., Kogi, K., Yoshioka, M., Inoue-Murayama, M. Age estimation of Indo-Pacific bottlenose dolphins (*Tursiops aduncus*) based on DNA methylation from fecal samples. 13th International Mammalogical Congress. (poster). July, 2023.

Yoshimura, H., Hayakawa, T., Kikuchi, D. M., Jumabay-Uulu, K., Qi, H., Sugimoto, T., Sharma, K., Kinoshita, K. Fecal DNA metabarcoding analysis of wild snow leopard (*Panthera uncia*) and sympatric mammals focusing on dietary plant species. PWS Symposium 2023. November, 2023.

Zemmoto, C., Arahori, M., Matsumoto, Y., Inoue-Murayama, M. AN INVESTIGATION OF DOG BEHAVIORAL TRAITS AND THEIR GENETIC UNDERPINNINGS, キルギスアカデミー. September, 2023.

報道

幸島観察所. 幸島観察所で行った、京大ウィークスの公開講座「幸島ニホンザルの観察会」の様子がNHKのTVニュースで報道されました。
<https://www3.nhk.or.jp/lnews/miyazaki/20231106/5060016804.html>. 2023年11月.

幸島観察所. 幸島観察所で行った、京大ウィークスの公開講座「幸島ニホンザルの観察会」の様子が宮崎放送で報道されました。 <https://newsdig.tbs.co.jp/articles/mrt/819284?display=1>. 2023年11月.

社会貢献

イベント参加・こども科学博 2023「生命のキセキ」 2023年8月

イベント参加・近畿地区会議学術講演会「女性の活躍から未来を考える」 2023年9月

セミナー参加・建都イノベーションパーク交流セミナー「遺伝子解析から挑む、在来家畜の生産効率化 ～開発途上国における安全かつ栄養ある食料の安定供給を目指して～」 2023年10月

イベント参加・日本動物行動学会第42回大会 ラウンドテーブル「野生動物とのキヨリを考える」 2023年11月

イベント参加・京大ウィークス 2023 関連イベント 公開講座『幸島ニホンザルの観察会』 2023 年 11 月

PWS 公開シンポジウム「ワイルドライフサイエンス：野生動物を知り、共に生きる」 2023 年 11 月

イベント開催・第 68 回プリマーテス研究会 (PWS 共催) 2024 年 2 月

公開シンポジウム「野生動物ラボの挑戦ーヤンバルクイナとツシマヤマネコ保全の最前線」 2023 年 12 月

公開シンポジウム「ヒトとサルの進化から考える社会と多様性」 2023 年 6 月

Primateology and Wildlife Science Virtual Open Campus 2024 2024 年 2 月

公開シンポジウム「海外調査地開拓のすすめ」 2023 年 7 月

野生動物研究センター共同利用研究会 2023 2024 年 2 月

『イヌワシ保全先進国 スコットランド研究者と考える～ニホンイヌワシの未来』 2023 年 9 月

WRC 共同利用研究会『DNA 細胞データベース研究会 性判定技術研修』 2024 年 3 月

18. 共同利用・共同研究拠点

概要

平成 22 年 7 月 1 日付で、本センターは共同利用・共同研究拠点として以下の認定を受けた。2022 年度から 6 年間(第 4 期)の継続が承認された。

大学・研究施設名: 京都大学野生動物研究センター

拠点名: 絶滅の危機に瀕する野生動物(大型哺乳類等)の保全に関する研究拠点研究

分野: 野生動物学

期間: 2011 年 4 月～2016 年 3 月(第 2 期中期目標期間)

2016 年 4 月～2022 年 3 月(第 3 期中期目標期間)

2022 年 4 月～2028 年 3 月(第 4 期中期目標期間)

共同利用・共同研究拠点運営委員および共同利用・共同研究拠点計画委員会は 4.9 を参照

2023 年度の活動

今年度も引き続き、野生動物や飼育下の動物の基礎研究を推進し、保全や繁殖育成や健康長寿に資する研究を推進した。また、動物園・水族館等との広範な連携体制の構築を目指した。2022年度まで実施していた「ウイズコロナ時代の人と動物」という研究課題は新型コロナウイルス感染症がほぼ収束したため終了し、「人と動物の共生」というより広い課題に変更した。

共同利用・共同研究は、例年と同様の枠組みで募集を行った。

・予算配分の有無での採択／実施の件数は以下の通りである。

予算配分のある課題 32 件採択 32 件実施 (応募 32 件、不採択なし)

予算配分がなく施設や資料を利用した課題 37 件採択 37 件実施

予算配分のある課題には 35 件の応募があり 32 件を採択した。その後、3 件の辞退があり、実施件数は 29 件だった。予算配分がなく施設や資料を利用した課題は 37 件(不採択なし)で、35 件を実施した。実施できなかった2件は、悪天候などのやむを得ない事情によるものだった。

全体として実施件数は 67 件で、昨年度と同程度の課題数だった。

・課題別の実施件数は以下の通りである。

課題	新規	継続	総計
1) 野生動物の保全	12	8	27
2) 動物園・水族館での保全	5	3	14
3) 人と動物の共生	1	2	0
4) 自由研究	21	15	25
総計	39	28	67

新規の課題が 39 件、継続の課題が 28 件だった。

・研究以外の利用

研究以外の活動は、主に実習やアウトリーチなどの教育・普及活動であり、主に屋久島観察所、幸島観察所を利用したものである。2022 年度は 8 件が実施された。幸島観察所で行われた学生実習 2 件、屋久島観察所で行われた学生実習 2 件、普及活動 3 件、屋久島観察所で行った安全に関する講習会 1 件だった。

・個別の採択課題とその報告書、関連する業績は野生動物研究センターのホームページに掲載している。

<https://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/cooperative/data.html>

・屋久島観察所の安全対策

2023 年 2 月 4 日に屋久島観察所を利用中の大学院生が野外調査中に死亡した。この事故を受けて、屋久島観察所の利用を制限した。詳しくは、10.2. 屋久島観察所を参照。

・2023 年度採択課題

No	ID	課題分類	申請代表者	所属機関	身分	対応者	課題名
1	2023-A-01	A4) 自由研究	渡邊彩音	名古屋大学	修士課程 2 年	杉浦	屋久島と種子島におけるヤマモモの分布様式の比較 —ニホンザル絶滅の影響—
2	2023-A-02	A4) 自由研究	青田幸大	東京農業大学大学院農学研究科	修士課程 1 年	三谷	鯨類の睡眠戦略に熱損失が及ぼす影響
3	2023-A-03	A4) 自由研究	吉村恒熙	京都大学大学院	大学院生・博士後期課程 3 回生	村山	アカギツネの行動と遺伝子による自己家畜化仮説の検討
4	2023-A-04	A4) 自由研究	五百部裕	椋山女学園大学	教授	平田	トカラ列島・口之島に生息する野生化ウシと野生化ヤギの社会生態学的調査
5	2023-A-05	A4) 自由研究	村山 夏紀	三重大学大学院	博士前期課程 1 年	三谷	背びれ形状に基づく陸奥湾に來遊するカマイルカの群れ構成および性比に関する研究
6	2023-A-07	A1) 野生動物の保全	辻井浩希	一般社団法人小笠原ホエールウォッチング協会	主任研究員	三谷	小笠原群島周辺海域に生息するハシナギイルカの保全に向けた個体数推定と個体群構造の把握
7	2023-A-08	A2) 動物園・水族館での保全	今村公紀	京都大学ヒト行動進化研究センター	助教	村山	動物園等で飼養されている哺乳動物種・個体の iPSC 細胞バンク化
8	2023-A-09	A4) 自由研究	金子武人	岩手大学	准教授	村山	野生動物配偶子バンクの構築および保存配偶子の人工繁殖への応用
9	2023-A-10	A1) 野生動物の保全	中込 大河	早稲田大学	修士課程 2 年	杉浦	北海道枝幸町におけるオジロワシがウミネコに及ぼす捕食以外の間接的影響の解明
10	2023-A-11	A4) 自由研究	西村大我	近畿大学大学院	博士前期課程 2 年	三谷	飼育イルカ成獣における隊列遊泳時の抵抗軽減効果
11	2023-A-12	3) 人と動物の共生	西川真理	琉球大学	ポスドク研究員	杉浦	農作物被害時期におけるヒヨドリ個体数の推定手法の比較
12	2023-A-13	A2) 動物園・水族館での保全	山田研祐	オリックス水族館(株) 京都水族館	獣医師	三谷	飼育ハンドウイルカにおけるメタボリックシンドローム緩和治療に関する調査
13	2023-A-14	A2) 動物園・水族館での保全	春日井隆	名古屋港水族館	部長	三谷	名古屋港に來遊するスナメリの周年変動
14	2023-A-15	A4) 自由研究	加来由津香	近畿大学	修士課程 1 年	三谷	シワハイルカの社会行動と個体間関係に関する研究
15	2023-A-16	A2) 動物園・水族館での保全	山本啓人	近畿大学大学院	博士前期課程 1 年	三谷	カツオ産卵行動のマルチ・カメラシステムを用いた 3 次元モニタリング
16	2023-A-17	A2) 動物園・水族館での保全	高橋 勇太	静岡市立日本平動物園	技師(主事級)	村山	飼育下スローリス類(Nycticebus spp.)の季節変化に伴う代謝量と栄養要求量の変化
17	2023-A-18	A2) 動物園・水族館での保全	柏木伸幸	かごしま水族館	技術職員	三谷	ハンドウイルカの簡便な冷蔵、冷凍精液保存の確立(継続)

18	2023-A-19	A1) 野生動物の保全	Jackson Johnstone	Hokkaido University	大学院生	三谷	The impact of environmental conditions on the benthic community and sea otter (<i>Enhydra lutris</i>) diet composition in Eastern Hokkaido
19	2023-A-20	A1) 野生動物の保全	Fay Taylor	Kyoto University	D1	村山	Finding the Forgotten Frosted Myotis: Uncovering Ecology and Behaviour of an Endangered Species in Ashiu Forest, Japan
20	2023-A-21	A2) 動物園・水族館での保全	立山 優里子	千葉市動物公園	技師	平田	獣舎内のアンモニア濃度が飼育下のチーターの行動と糞中コルチゾール濃度に及ぼす影響
21	2023-A-22	3) 人と動物の共生	亀田 佳代子	滋賀県立琵琶湖博物館	副館長	村山	鶺鴒のウミウの遺伝的背景の解明
22	2023-A-23	A1) 野生動物の保全	大島康平	筑波大学	修士課程 1 年	三谷	海洋由来水銀を陸上生態系へ運ぶ「輸送者」としての海鳥の役割の解明
23	2023-A-24	A4) 自由研究	北浦愛望	常磐大学大学院人間科学研究科	修士課程 1 年 (2022 年度時点)	三谷	シャチが用いるコールと社会的文脈の変異
24	2023-A-25	A4) 自由研究	中陳遥香	京都大学大学院	修士課程 1 年	三谷	海棲哺乳類のテロメア長および変化量とその要因に関する研究
25	2023-A-26	A1) 野生動物の保全	稲本 俊太	早稲田大学	修士課程 1 年	杉浦	ウミネコの採食行動における性差と年変動
26	2023-A-27	A4) 自由研究	角田史也	京都大学生態学研究センター	修士課程 1 年	杉浦	ヤクシマザルの花蜜食行動がヤブツバキの繁殖に与える影響
27	2023-A-28	A1) 野生動物の保全	小澤光莉	東洋大学大学院	博士後期課程 1 年	三谷	東北地域における海鳥を利用した重要海域の推定
28	2023-A-29	A1) 野生動物の保全	小川真由	京都大学	博士後期課程 3 年	三谷	船舶の航行頻度が小型鯨類スナメリの長期的来遊に与える影響評価
29	2023-A-30	A1) 野生動物の保全	Jaock Kim	Graduate School of Science, Kyoto University	The first-year master's student	杉浦	How the presence and support of a mother affects her daughter's reproductive success in Japanese monkeys
30	2023-A-31	3) 人と動物の共生	村山恭平	北海道大学大学院	修士課程 2 年	三谷	仮想市場評価法による北海道東部沿岸のラッコが地域経済にもたらす便益推定
31	2023-A-32	A1) 野生動物の保全	池田 岳弘	京都大学 農学部	学部 4 年	三谷	ドローン映像における小型鯨類スナメリの撮影可能深度の検証
32	2023-A-33	A2) 動物園・水族館での保全	石徹白ほか	北里大学大学院	修士課程 1 年	平田	ハシビロコウの繁殖成功にむけた調査一団体間関係および営巣行動一

33	2023-B-01	A4) 自由研究	栗原洋介	静岡大学	特任助教	杉浦	ニホンザルの昆虫食が枯死木分解にあたえる影響
34	2023-B-02	A4) 自由研究	栗田博之	大分市教育委員会事務局	参事	鈴木	野猿公園で活用できるニホンザル妊娠有無判定方法の確立
35	2023-B-03	A4) 自由研究	舟川一穂	京大大学生態学研究センター	博士課程2年	鈴木	安定同位体比を用いた、ニホンザル野生群における個体レベルでの食性解析
36	2023-B-04	A1) 野生動物の保全	井上漱太	名古屋大学	日本学術振興会特別研究員	鈴木	ドローンを用いた空中映像からニホンザルの視野を追跡する
37	2023-B-05	A4) 自由研究	狩野文浩	コンスタンツ大学	ジュニアグループリーダー	平田	コンピュータビジョンを用いたカラスの3次元姿勢情報の推定
38	2023-B-06	A4) 自由研究	李怜柱	京都大学	博士後期課程4年	鈴木	野生ウマの社会で母ウマの社会関係が仔ウマの社会性に及ぼす影響
39	2023-B-07	A4) 自由研究	PIAO YIGE	Wildlife Research Center, Kyoto University	PhD student, D3	平田	Investigation of social learning mechanisms in bonobos and chimpanzees: comparative cognitive study on social intelligence underpinning culture
40	2023-B-08	A4) 自由研究	James Brooks	Kyoto University	D3	平田	Collaborative research on great ape group-mindedness
41	2023-B-09	A1) 野生動物の保全	MAJEWSKI Maria Katherine	WRC	D1	MacIntosh	Latrine surveys and monitoring for predation and disease spread by invasive raccoon dogs (Nyctereutes procyonoides) on Yakushima island
42	2023-B-10	A4) 自由研究	林亮太	日本工営株式会社	研究員	杉浦	屋久島に産卵にやってくるアカウミガメ等に付着する生物の多様性調査
43	2023-B-11	A4) 自由研究	金原蓮太郎	京都大学	修士課程1年	鈴木	密度効果によるニホンザル個体数調節メカニズム検証の予備調査
44	2023-B-12	A1) 野生動物の保全	揚妻直樹	北海道大学	教授	杉浦	ヤクシカの個体群動態および地域個体群間の遺伝子流動について
45	2023-B-13	A4) 自由研究	前田 玉青	総合研究大学院大学	JSPS 特別研究員	鈴木	野生化ウマの重層社会と集団行動
46	2023-B-14	A4) 自由研究	澤田晶子	京都大学	特任研究員	杉浦	ニホンザルの生態学的調査ならびに菌類胞子の散布生態調査
47	2023-B-15	A1) 野生動物の保全	西川完途	京都大学	4年生	村山	DNA メチル化によるオオサンショウウオ年齢推定
48	2023-B-17	A1) 野生動物の保全	木下こづえ	京都大学大学院	准教授	村山	ネパールのシェイボックス国立公園におけるユキヒョウの家畜襲撃について生理学的要因の解明

49	2023-B-18	A4) 自由研究	白澤子銘	京大 WRC	修士一年	鈴木	宮崎県幸島ニホンザルを対象に赤外線カメラ(IRT)を用いた探索的研究
50	2023-B-19	A1) 野生動物の保全	杉浦秀樹	京都大学	准教授	杉浦	屋久島西部地域における中大型動物の生態調査
51	2023-B-20	A4) 自由研究	MACINTOSH Andrew	WRC	Associate Professor	鈴木	Parasite avoidance and hygiene among Koshima macaques revisited
52	2023-B-21	A4) 自由研究	鈴木滋	龍谷大学	教授	杉浦	野生ニホンザル社会のエソグラムによる地域間比較
53	2023-B-22	A4) 自由研究	小野田雄介	京都大学	教授	杉浦	屋久島における森林の構造や動態に関する研究
54	2023-B-23	A4) 自由研究	松村秀一	岐阜大学応用生物科学部	教授	平田	チンパンジーの幼少期の生育環境と遺伝子のエピジェネティックな変異の関連
55	2023-B-24	A4) 自由研究	片岡 直子	京都大学大学院理学研究科	修士課程 1 年	杉浦	ニホンザルの出自分散における社会行動または葛藤
56	2023-B-25	A4) 自由研究	井上治久	京都大学 iPS 細胞研究所	教授	平田	健常およびダウン症のチンパンジー脳組織を用いた霊長類神経系の解析とヒト疾患解析への応用
57	2023-B-26	A1) 野生動物の保全	藤田志歩	鹿児島大学	准教授	杉浦	口永良部島における生物多様性保全に向けた哺乳類相の基盤データ整備
58	2023-B-27	A4) 自由研究	金原蓮太郎	京都大学大学院	修士課程 1 年	杉浦	群れサイズがヤクシマザルの凝集性に及ぼす影響と凝集性調節時の行動解明
59	2023-B-28	A4) 自由研究	鈴木樹	ヒト行動進化研究センター	修士課程 1 年	鈴木	幸島の野生ニホンザルの採食葉選択
60	2023-B-29	A1) 野生動物の保全	南川未来	京都大学	修士課程 1 年	杉浦	ニホンザルの腸内細菌の発酵能力
61	2023-B-30	A4) 自由研究	狩野文浩	University of Kosntanz	Junior Group Leader	平田	類人猿における摸倣場面における注意: アイ・トラッキング研究
62	2023-B-31	A1) 野生動物の保全	杉浦秀樹	京都大学	准教授	鈴木	幸島のニホンザルの個体群動態に関する長期研究
63	2023-B-32	A4) 自由研究	大西絵奈	京都大学野生動物研究センター	博士課程 3 年	平田	飼育チンパンジーの排尿行動の観察
64	2023-B-34	A1) 野生動物の保全	鍋島 圭	国立環境研究所	特別研究員	#N/A	コウモリにおける遺伝資源保存とウイルス叢の解明を目的とした研究
65	2023-B-35	A4) 自由研究	佐竹まどか	宇都宮大学	修士課程 2 年	杉浦	ヤクシマザルにおけるロコモーション観察
66	2023-B-36	A4) 自由研究	王昕 (WANG, Xin)	京都大学	修士課程 1 年	杉浦	異なる温度域に分布する樹木の相互移植実験による温度適応メカニズムの解析

67	2023-B-37	A4) 自由研究	小川あゆみ	京都大学	修士課程1年	鈴木	野生ウマの共同行動における joint commitment の存在の解明
68	2023-C-01	実習	杉浦秀樹	京都大学	准教授	杉浦	屋久島での野外調査の安全対策
69	2023-C-02	実習	鈴木滋	龍谷大学	教授	杉浦	龍谷大学国際学部国際文化実践ⅡD(屋久島の人と自然)
70	2023-C-04	アウトリーチ	熊井 勇介	東京大学	博士課程2年	杉浦	ウナギの観察エクスカージョン
71	2023-C-05	アウトリーチ	杉浦秀樹	京都大学	准教授	鈴木	京大ウィークス 2023 幸島野生ニホンザルの観察会
72	2023-C-06	アウトリーチ	赤見理恵	公益財団法人日本モンキーセンター	キュレーター	杉浦	モンキーキャンパス 屋久島研修ツアー
73	2023-C-07	実習	坂崎 貴俊	京都大学大学院理学研究科	准教授	鈴木	自然界に潜む規則性を探る
74	2023-C-08	実習	杉浦秀樹	京都大学	准教授	杉浦	屋久島実習: ヤクシマザルなどの動物の観察
75	2023-C-09	実習	杉浦秀樹	京都大学	准教授	鈴木	幸島実習

19. 野生動物研究センター 企業連携・情報発信事業

①情報発信

1) SNS(X)

センターのイベント、ニュース、研究成果、研究の様子などを WRC の公式 twitter で発信した。詳細は下記 URL の通りである。(https://twitter.com/WRC_KyotoUniv)

2) ニュースレター

教員・学生・卒業生が自身の研究について紹介するニュースレターを月1～2回のペースで刊行した。詳細は下記 URL の通りである。(http://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/news-letter.html)
(協力：電通株式会社)

3) 公式 YouTube にて動画配信

動物園・水族館大学の記録動画や掲載論文の紹介映像の公開を継続している。詳細は下記 URL の通りである。(https://www.youtube.com/channel/UCv8bhV6SzEjHizKKFyRFxhQ)

②企業連携

2021 年度に販売を開始した、ガチャポンキーホルダー（研究の傍ら撮影していた動物の交尾写真のガチャポンを制作し、併せてその動物種の生態をウェブ上で公開（および QR コードをガチャポンに添付）することで、ガチャポンを通してその動物種の生態を知る仕組み）について、京都大学生協同組合（生協）での販売を継続した。年末に集計された販売数量に応じて、収益の5%相当額を生協から WRC に寄付する仕組みである。http://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/projects/gachapon/
(協力：電通株式会社)

